

SGI 1100 Server ユーザーズガイド

007-4337-001JPN

著作者

著者: Eric Zamos et al

イラストレーター: Dan Young

編集: Connie Boltz

製作: Karen Jacobson

アドバイザー: Jagdish Bhavsar, Richard Fitzgerald, Jim Gath, Mark Schwenden, Charles Skandalis

Copyright

© 2000 Silicon Graphics, Inc. All rights reserved. ただし、一部に第三者が著作権を所持している箇所があります。そのような部分はその旨が明記されています。Silicon Graphics, Inc. の書面による許可なく、この電子文書の記載内容の全部または一部を複製、配布、または派生物を作成することはできません。

権利の制限通知

この文書の電子版（ソフトウェア）は私的費用によって開発されたものです。米国政府機関またはその契約業者との契約下で入手された場合は、FAR の (a) 48 CFR 12.212 に規定されているとおり、または国防省の場合は DoD FAR Supplement の (b) 48 CFR 227-7202 またはそれに続くセクションの規定どおり、該当するライセンス契約の条項に従って「商用コンピュータソフトウェア」として入手されたものとします。契約者 / 製造者は Silicon Graphics, Inc., 1600 Amphitheatre Pkwy 2E, Mountain View, CA 94043-1351 USA です。

商標と権利の帰属

Silicon Graphics は Silicon Graphics, Inc. の登録商標で、SGI と SGI のロゴは同社の商標です。Linux は Linus Torvalds の登録商標です。MS-DOS、Windows、Windows NT は Microsoft Corporation の登録商標です。

表紙デザイン: Sarah Bolles (Sarah Bolles Design), Dany Galgani (SGI Technical Publications)

改訂情報

バージョン	説明
001	2000年12月 初版

目次

図一覧	.ix
表一覧	.xi
このマニュアルについて	xiii
その他の出版物	xiii
読者の皆様のコメント	xiii
1. システムの概要とセットアップ	1
サーバのパッケージを開けて中身を確認する	2
物理的仕様および環境仕様	2
消費電力	3
放熱装置	3
設置場所の選択	4
システム前面の制御スイッチとライト	5
背面パネルの I/O ポートとその機能	7
コンソールの接続	8
システムの起動	8
電源投入時のトラブルについて	8
IPMI (Intelligent Platform Management Interface)	10
Intelligent Platform Management Interface (IPMI)	10
Intelligent Platform Management Bus (IPMB)	10
Intelligent Chassis Management Bus (ICMB)	11
Baseboard Management Controller (BMC)	11

2. ラック設置手順	13
サーバのパッケージを開けて中身を確認する	13
設置に必要な空間を確保する	14
ラック垂直レールの取り付け穴のパターン	15
ラック取り付け金具	16
スライドの組み立て	18
スライドをラックに取り付ける	21
ケージUナットをラックレールに取り付ける	24
SGI 1100 Server をラックに設置するための準備	25
SGI 1100 Server をラックに設置する	26
ラックの電力分配装置	29
3. セットアップユーティリティ (Setup Utility)	31
はじめに	31
セットアップ (Setup) の開始	32
システム情報	34
製品情報	36
ディスクドライブ	37
IDE チャンネルタイプ	38
オンボード周辺装置	42
パワーマネージメント	44
起動オプション	47
日付および時刻	50
システムセキュリティ	52
スーパーバイザパスワード	52
パスワードの設定および変更	53
パスワードの解除	54
スーパーバイザパスワードのチェックを行わないようにするには	55
ユーザパスワード	56
ディスクドライブコントロール	57

フロッピーディスクドライブおよびハードディスクドライブ	57
プロセッサのシリアル番号	58
IPMI (Intelligent Platform Management Interface) の設定	59
RDM の設定	61
詳細オプション	64
メモリ / キャッシュオプション	65
PnP/PCI オプション	66
CPU 周波数	69
デフォルト設定のロード	71
設定変更の中止	71
セットアップ (Setup) の終了	72
索引	73

図一覧

図 1-1	前面の制御スイッチとライト	5
図 1-2	背面パネルのI/Oポートとその機能	7
図 2-1	ラック垂直レールの取り付け穴のパターン	15
図 2-2	スライドの前面側の確認	18
図 2-3	前面側のブラケットをスライドに取り付ける	19
図 2-4	背面側のブラケットをスライドに取り付ける	20
図 2-5	スライドブラケットを前面ラックレールに固定する	21
図 2-6	スライドブラケットを背面ラックレールに固定する	22
図 2-7	ケージUナットをラックレールに取り付ける	24
図 2-8	レールを SGI 1100 Server 本体に取り付ける	25
図 2-9	ラックスライドを伸ばす	26
図 2-10	本体をラックレールにスライドさせて挿入する	27
図 2-11	スライドラッチの解除	28
図 3-1	基本レベルの [Basic Setup Utility] 画面	33
図 3-2	詳細レベルの [Advanced Setup Utility] 画面	33
図 3-3	[System Information] 画面	34
図 3-4	[Product Information] 画面	36
図 3-5	[Disk Drives] 画面	37
図 3-6	[IDE Primary Channel Master] 画面	38
図 3-7	[IDE Primary Channel Slave] 画面	41
図 3-8	[Onboard Peripherals] 画面	42
図 3-9	[Power Management] 画面	44
図 3-10	[Boot Options] 画面	47
図 3-11	[Date and Time] 画面	50

図 3-12	[System Security] 画面	52
図 3-13	[Supervisor Password] 画面	53
図 3-14	[Exit Setup] 画面	54
図 3-15	[Exit Setup] 画面	54
図 3-16	[User Password] 画面	56
図 3-17	[System Security] 画面	57
図 3-18	[IPMI Configuration] 画面	59
図 3-19	[RDM Configuration] 画面	61
図 3-20	[Advanced Options] 画面	64
図 3-21	[Memory/Cache Options] 画面	65
図 3-22	[PnP/PCI Options] 画面	66
図 3-23	[CPU Frequency] 画面	69
図 3-24	[Load Default Settings] 画面	71
図 3-25	[Abort Settings Change] 画面	71
図 3-26	[Exit Setup] 画面	72
図 3-27	[Save Settings] 画面	72

表一覧

表 1-1	SGI 1100 Server の物理的仕様および環境仕様	2
表 1-2	前面の制御スイッチとライト	5
表 1-3	背面パネルの I/O ポートとその機能	7
表 2-1	SGI 1100 Server の設置に必要な空間	14
表 2-2	ラック取り付け金具	16
表 3-1	[System Information] 画面のパラメータ	34
表 3-2	[Product Information] 画面のパラメータ	36
表 3-3	[Disk Drives] 画面のパラメータ	37
表 3-4	[IDE Drive] 画面のパラメータ	39
表 3-5	[Onboard Peripherals] 画面のパラメータ	42
表 3-6	[Power Management] 画面のパラメータ	45
表 3-7	[Boot Options] 画面のパラメータ	48
表 3-8	[Date and Time] 画面のパラメータ	51
表 3-9	[Disk Drive Control]	57
表 3-10	[IPMI Configuration] 画面のパラメータ	59
表 3-11	[RDM Configuration] 画面のパラメータ	62
表 3-12	[Memory/Cache Options] 画面のパラメータ	65
表 3-13	[PhP/PCI Options] 画面のパラメータ	66
表 3-14	[CPU Frequency] 画面のパラメータ	69

このマニュアルについて

本書では、以下の章でSGI 1100 Server の機能、ラックを設置する手順、およびセットアップユーティリティについて説明します。

- 第1章「システムの概要とセットアップ」
- 第2章「ラック設置手順」
- 第3章「セットアップユーティリティ (Setup Utility)」

巻末には索引があります。

その他の出版物

SGI の出版物を入手するには、<http://techpubs.sgi.com> の SGI Technical Publications Library をご覧ください。

読者の皆様のコメント

本書の技術的な正確さ、内容、構成についてご意見をお持ちの場合は、弊社にご連絡ください。コメントにはマニュアルのタイトルとドキュメント番号を必ず記載してください（オンラインマニュアルでは、ドキュメント番号は、マニュアルの前付にあります。印刷されたマニュアルでは、ドキュメント番号は各ページの下に記載されています）。

次のいずれかの方法で、弊社にご連絡ください。

- 以下のアドレスに電子メールを送信する。
`techpubs@sgi.com`

- Technical Publications Library Web ページの Feedback オプションを利用する。
<http://techpubs.sgi.com>
- カスタマサービスの担当者に連絡を取り、SGI 障害追跡システムに記録されている事例かどうかを問い合わせる。
- 以下の宛先に手紙を送る。

Technical Publications
SGI
1600 Amphitheatre Pkwy., M/S 535
Mountain View, CA 94043-1351, USA

- +1 650 932 0801 の「Technical Publications」宛に FAX を送信する。

弊社では、寄せられたコメントを尊重し、直ちにご返答いたします。

システムの概要とセットアップ

SGI 1100 は、高さ 1 ユニットの高密度ラック搭載型 PCI バスベースデュアルプロセッサシステムで、拡張 ATX ベースボードに搭載されています。このシステムは、Linux、Windows NT 4.0、および Windows 2000 Advanced Server オペレーティングシステムと完全な互換性があります。

本章では、以下の節で SGI 1100 Server の主要な機能とセットアップについて説明します。

- 「サーバのパッケージを開けて中身を確認する」
- 「物理的仕様および環境仕様」
- 「設置場所の選択」
- 「システム前面の制御スイッチとライト」
- 「背面パネルの I/O ポートとその機能」
- 「コンソールの接続」
- 「システムの起動」
- 「IPMI (Intelligent Platform Management Interface)」
- 「電源投入時のトラブルについて」

サーバのパッケージを開けて中身を確認する

梱包からサーバを取り出して、次のものが入っているか確認します。

- SGI 1100 システム
- SGI 1100 Server クイックスタートガイド
- SGI 1100 Server ドキュメント CD
- リソース CD (デバイスドライバを含む)
- ラック搭載キット

輸送中に不適切な扱いを受けたために、上記の内容物が損傷していないか確認します。中身が損傷しているように見える場合は、すぐに運送業者に連絡します。

後で使えるように、箱と梱包資材を保管しておきます。

物理的仕様および環境仕様

SGI 1100 Server は、標準の 19 インチラックに搭載するように設計されています。19 インチラックに SGI 1100 Server を搭載する方法については、第 2 章「ラック設置手順」を参照してください。

表 1-1 に、SGI 1100 Server システムの物理的および環境的仕様を示します。表 1-1 に、SGI 1100 Server システムの物理的仕様および環境仕様を示します。

表 1-1 SGI 1100 Server の物理的仕様および環境仕様

高さ	1 ユニット (4.45 cm、1.75 インチ)
幅	48.25 cm (19.0 インチ)
奥行き	53.85 cm (21.2 インチ)
重量	11 kg (24.2 ポンド)、最大構成の場合
温度	+5 ° C (41 ° F) ~ +35 ° C (+95 ° F) (稼動時) -10 ° C (14 ° F) ~ +60 ° C (+149 ° F) (停止時)

表 1-1 (続き) SGI 1100 Server の物理的仕様および環境仕様

湿度	20% ~ 80% RH, 結露なし
振動	
稼働時 (開梱時)	5 ~ 16.2 Hz: 0.38 mm (peak to peak) 16.2 ~ 250 Hz: 0.2 G
停止時 (梱包時)	5 ~ 27.1 Hz: 0.60 G 27.1 ~ 50 Hz: 0.4 mm (peak to peak) 50 ~ 500 Hz: 2.0 G

消費電力

サーバの電源装置は、最大 200 W の DC 出力です。AC 入力の最大消費電力は、約 307 W です。次のことを考慮に入れてください。

- 110 ボルトの AC 電源を使用すると、装置を完全に搭載したシステムの場合、最大で 2.80 A を消費することになります。
- 220 ボルトの AC 電源を使用すると、装置を完全に搭載したシステムの場合、最大で 1.40 A を消費することになります。

同じ場所に 1 ユニットのサーバをたくさん設置すると、電力消費はかなり大きくなります。設置するサーバの電力消費量を計算するには、次のような簡単な式を利用できます。

(サーバ数) x (307W) = すべてのサーバの最大電力消費量

放熱装置

サーバには、次の冷却システムがあります。

- 交換可能なファンを 3 つ内蔵するファン取り付け板
- 各 CPU のファンシンク (CPU は 2 つ)
- 電源装置内蔵ファン x 1
- 後部送風装置 x 2

最大構成で最大作業負荷がかかった状態の SGI 1100 Server は、約 1047 Btu/hr の熱量を発生します。サーバ周辺の気温については、サーバの前面と背面では、25 °C (45 °F) ほどの差が出る場合があります。同じ場所にたくさんのサーバを設置している場合は、かなりの熱量を発生します。たとえば、最大作業負荷がかかっているサーバが 36 台ある場合、37,692 Btu/hr もの熱量が発生します。

設置場所の選択

通常のオフィス環境であれば、サーバは高い信頼性で稼働します。以下の条件を満たす設置場所を選んでください。

- システムの近くに、正しく接地された 3 ピンプラグ用のコンセントがある水平な場所。
 - 米国およびカナダ: 100-120 V の NEMA 5-15R コンセント、または 200-240 V の NEMA 6-15R コンセントのある場所
 - 上記以外の地域: その国の電力関係省庁または地方自治体が定める規格に準拠して、正しく接地されているコンセントがある水平な場所

メモ: ラックの設置では、1 つまたは複数の電力分配装置 (PDU) が使用されることがよくあります。このような場合、SGI 1100 Server は PDU に接続されます。各 PDU は、その国の電力関係省庁または地方自治体が定める規格に従った適切なコンセントに接続する必要があります。

- 清潔で過度のほこりがない場所
- 通気性に優れ、高熱の発生源から離れている場所。サーバの通気口の前に障害物を置かないでください。
- 振動や物理的な衝撃を受けない場所
- 強い電磁波の影響を受けず、エレベータ、コピー機、エアコン、大型の換気扇、大型の電気モーター、ラジオ、テレビ、高周波数のセキュリティ装置など、ラインノイズを発生させる電子機械が周辺にない場所
- 電源装置またはコンセントからサーバの電源コードを簡単に外せるスペースを確保します。サーバから AC 電源を切り離すには、コードを外す必要があります。
- 冷却と空気循環のために、本体の周辺には十分な隙間が必要です。



注意: 電磁波の乱れがよく発生する地域では、サージ抑制器にコンピュータを接続し、電磁波の乱れが発生した時には、通信回線をすべて取り外すようにします。

システム前面の制御スイッチとライト

本節では、図1-1に図示した SGI 1100 Server の前面の制御スイッチとライトについて説明します。

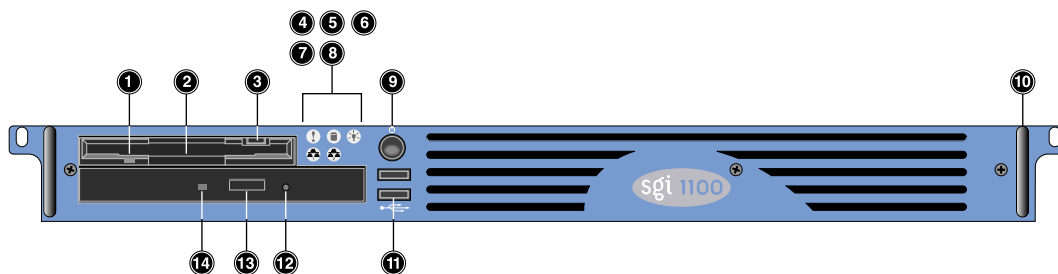


図 1-1 前面の制御スイッチとライト

表 1-2 では、図 1-1 に図示した前面の制御スイッチとライトについて解説します。

表 1-2 前面の制御スイッチとライト

番号	解説
1	スリムタイプのフロッピーディスクドライブの LED
2	スリムタイプのフロッピーディスクドライブ
3	スリムタイプのフロッピーディスクドライブのイジェクトボタン
4	イベント LED
5	ハードディスクドライブアクセス LED
6	電源 LED
7	LAN 2 アクセス LED
8	LAN 1 アクセス LED
9	電源ボタン
10	金属製のつまみ
11	USB ポート (2 ポート)
12	スリムタイプの CD-ROM ドライブに用意された緊急用のイジェクトホール

表 1-2 (続き) 前面の制御スイッチとライト

番号	解説
13	スリムタイプの CD-ROM ドライブのイジェクトボタン
14	スリムタイプの CD-ROM ドライブの LED

汎用のイベント LED は、以下が発生したことを示します。

- 温度、電圧、システムファン、冗長電源、またはヒューズに関するイベント
- CPU IERR および過熱エラー
- システムファンまたは電源のプラグ抜け
- 訂正不能メモリエラー (複数の ECC エラー)
- PCI PERR または SERR エラー

発生したイベントがすべて回復した場合、ベースボード管理コントローラ (BMC) によってイベント LED が消灯します。

メモ : BIOS POST、PCI ホットプラグ、および訂正可能メモリエラーのイベントでは、BMC による汎用イベント LED の点灯は行われません。

背面パネルの I/O ポートとその機能

本節では、図1-2に示す背面パネルの I/O ポートとその機能について説明します。

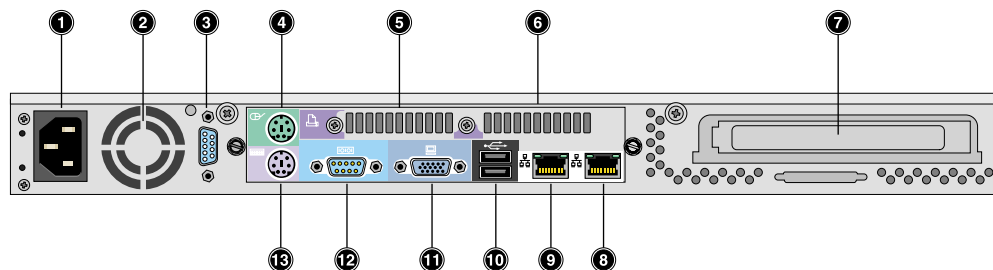


図1-2 背面パネルのI/Oポートとその機能

表1-3では、図1-2に図示した背面パネルのI/Oポートとその機能について解説します。

表1-3 背面パネルのI/Oポートとその機能

番号	解説
1	AC 電源入力
2	通気口
3	シリアルポート 2
4	PS/2 マウスポート
5	通気口
6	通気口
7	アドオンカードのブラケット
8	LAN 2 ポート (RJ-45)
9	LAN 1 ポート (RJ-45)
10	USB ポート (2 ポート)
11	VGA ポート
12	シリアルポート 1
13	PS/2 キーボードポート

コンソールの接続

SGI 1100 Server は、VGA モニタ、キーボード（PS/2 または USB）、およびマウス（PS/2 または USB）とともに使用できます。システムがいったん設定されれば、コンソール装置がなくても使用できます。

各種の接続については、7 ページの「背面パネルの I/O ポートとその機能」で説明しています。

システムの起動

システムを適切に設定して、必要なケーブルをすべて接続すると、電源ボタンを押してシステムに電源を入れることができます。

システムが起動すると、ウェルカムメッセージが表示されます。その後は、電源投入時の一連の自己診断 (POST) メッセージが表示されます。この POST メッセージは、システムが正しく稼動しているかどうかを表示します。

メモ：電源ボタンを押してもシステムに電源が入らない、あるいは、起動処理が行われない場合、起動処理が失敗した原因について知るために、次のセクションを参照してください。

自己診断メッセージのほかにも、次の項目を確認して、システムが正しい状態にあるかどうかを判断できます。

- 前面パネルの電源 LED が点灯（緑）している
- キーボード上の Num Lock、Scroll Lock、Caps Lock などの LED が点滅する

電源投入時のトラブルについて

電源を投入してもシステムが起動しない場合、以下の項目が起動失敗の原因となっていないかを確認してください。

- 電源コードがきっちりと接続されていない可能性があります。
コンセントとサーバの背面パネルにある電源入力ソケットの両方を確認して、電源コードが接続されているかチェックします。装置の各ケーブルが、適切に電源装置に接続されていることを確認します。

- コンセントに電流が供給されていない場合があります。
コンセントをチェックするために、電力会社に問い合わせます。

メモ：これまで説明した対処方法を行ったにもかかわらず、システムが依然として起動しない場合は、販売代理店または資格のある技術者にお問い合わせください。

IPMI (Intelligent Platform Management Interface)

IPMI は、ハードウェア管理のためのオープンな標準インターフェイス仕様です。IPMI が提供するアーキテクチャでは、個々の装置と CPU が通信するための標準方法が定義されています。

IPMI では、CPU は、1 つのイベントを IPMI イベントログへ伝達するだけですみます。CPU は、最後の問い合わせ以降の変更内容を問い合わせるだけです。各装置は、IPMI を介してイベントログと直接通信します。個々の装置のすべての状態イベントは、一貫した方法でイベントログに記録されます。これにより、エージェント処理ルーチンは単純になります。システムはエージェントを 1 つだけ必要とするため、管理する装置を 5 台から 6 台に変更した場合でも、システムを変更する必要はありません。また、システムに新しい装置を追加する場合にも、CPU がイベントログをチェックする方法を変更する必要はありません。装置が 1 台でも 100 台でも、チェックする方法は同じです。IPMI を使用すると、CPU の使用が最小限となるため、全体のシステム性能は向上します。

IPMI の 4 つの要素は次のとおりです。各要素については、以降の節で説明します。

- Intelligent Platform Management Interface
- Intelligent Platform Management Bus
- Intelligent Chassis Management Bus
- Baseboard Management Controller

Intelligent Platform Management Interface (IPMI)

IPMI は、センサ用、イベントログ用、センサデータレコードアクセス用のコマンドセットなどの管理コントローラコマンドセットの仕様です。また、センサデータレコード、イベントログエントリ、FRU インベントリ情報などのデータフォーマットの仕様です。さらに、IPMI の名のもとでこれ以外にもさまざまな標準化のための取り組みがなされています。

Intelligent Platform Management Bus (IPMB)

IPMB は、「サテライト」管理コントローラとシステム内部の通信に使用される、I2C ベースのマルチマスタバスです。ここでは、IPMI バスアクセスが可能なセンサ装置とカードを IPMI 標準に追加できます。

Intelligent Chassis Management Bus (ICMB)

ICMB は、IPMB に基づく、RS-485 ベースのシステム内部管理バスです。ICMB は、電源やリセット制御、システム状態、イベント、FRU インベントリなどを含む一般的なシステム管理および緊急管理機能に使用されます。

Baseboard Management Controller (BMC)

BMC は、ベースボードの温度および電圧を監視するために使用されます。また、センサデータレコード用のシステムイベントログおよび不揮発性記憶装置を管理するために使用されます。BMC は、IPMB とのシステムソフトウェアインターフェイスを提供します。

ラック設置手順

本章では、SGI 1100 Server を SGI 19 インチラックに設置する手順を説明します。

SGI 1100 Server は極端に重くありませんが、ラックに設置しにくいことがあります。ほかの1名の補助を受けながら設置してください。

メモ：SGI 19インチラックの特定のスロットにSGI 1100 Server を設置する場合、PDU（電力分配装置）を1つ外さないとスライドブラケット取り付けネジに届かないことがあります。

サーバのパッケージを開けて中身を確認する

サーバを箱から取り出し、すべてのアクセサリが揃っているかどうか確認します。輸送中の不適切な取り扱いによって箱の外側に傷が付いていないか調べます。箱が損傷している場合は、証拠写真を撮ります。損傷している箱と梱包材は、箱から中身を取り出した後も保管しておきます。

サーバとアクセサリが損傷していないかどうか調べます。中身が損傷しているように見える場合は、すぐに運送業者に連絡します。

設置に必要な空間を確保する

SGI 1100 Server システムを SGI ラックに設置するときに必要な空間を表 2-1 に示します。

表 2-1 SGI 1100 Server の設置に必要な空間

高さ	1 ユニット (4.45 cm、1.75 インチ)
幅	48.25 cm (19.0 インチ)
奥行き	53.85 cm (21.2 インチ)
重量	11 kg (24.2 ポンド)、最大構成の場合
前面に必要な間隙	63.5 cm (25 インチ) 以上 (システムのメンテナンス用)
背面に必要な間隙	50.8 cm (20 インチ) 以上 (ラック扉用の間隙)
側面に必要な間隙	なし

ラック垂直レールの取り付け穴のパターン

SGI ラックの4つの垂直レールには、図2-1に示すように取り付け穴が配列されています。

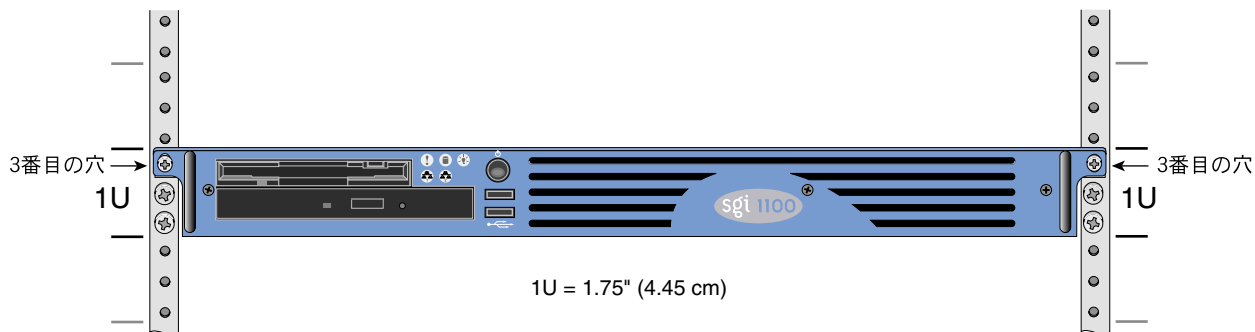


図2-1 ラック垂直レールの取り付け穴のパターン

SGI 1100 Server システムは、ラックの1ユニット分を占有します。ユニットの位置と穴の番号は下から数えます。

メモ：本書では、「U (ユニット)」(1ユニット=1.75インチまたは44.5 mm) という測定単位を使用します。「ユニット」で測定したラック内の全コンポーネントの高さの合計がラックの高さを超えることはできません。詳細については、ラックのマニュアルを参照してください。

1つの穴の中央から3つ上の穴の中央までの距離が1ユニットに相当します。

コンポーネントを実装する場合、間隔が狭くなっている2つの穴の中央から測定する必要があります。間隔が狭くなっている2つの穴の中央を基準にしないと、コンポーネントのネジ穴がラックのネジ穴に合わないことがあります。

ラック取り付け金具

SGI 1100 Server を SGI 19 インチラックに設置する場合、表2-2に示すラック取り付け金具を使用します。

表2-2 ラック取り付け金具

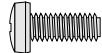


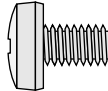

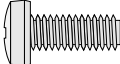

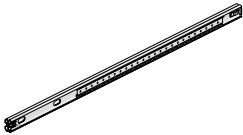


形状	種類	数量	用途
	M4 x L8 ネジ	12	スライドを取り付けブラケットに固定します。
	M4 止め座金	12	スライドを取り付けブラケットに固定します。
	M4 ナット	12	スライドを取り付けブラケットに固定します。
	M6 x L10 ネジ	8	スライド取り付けブラケットをラックレールに固定します。
	10-32 U ナット	2	SGI 1100 Server の前面パネルをラックレールに固定するネジ穴があります。
	10-32 x 0.5 インチネジ	2	SGI 1100 Server の前面パネルを U ナットに固定します。
	M4 x L5 ネジ	8	コンポーネントレールをシステムに固定します。

表 2-2 (続き) ラック取り付け金具

形状	種類	数量	用途
	スライド	2	SGI 1100 Server 本体をラックの外にスライドさせて、アクセスできるようにします。 (左右のスライドの形状は同じです)
	取り付けブラケット	4	スライドをラックの垂直レールに取り付けます。 (左右の前と後にある4つのブラケットの形状はすべて同じです)
	本体用レール	2	SGI 1100 Server 本体に取り付けます。 (左右のレールの形状は同じです)

メモ：特定ブランドのラックで使用されるステップ座金など、上記以外の取り付け金具がラック搭載キットに含まれていることもあります。SGI 1100 Server を SGI ラックに設置する場合、上記以外の取り付け金具は使用しません。

スライドの組み立て

スライドを組み立てるには、以下の手順に従ってください。

1. 1つのスライドから本体用レールを外します（スライドと本体用レールの形状については、表2-2を参照してください）。レールを外すには、図2-11に示すように、リリースラッチを押す必要があります。
2. スライドを元の形に押し縮めます。
3. スライドの前面側を確認します。図2-2の矢印は前方向を示します。

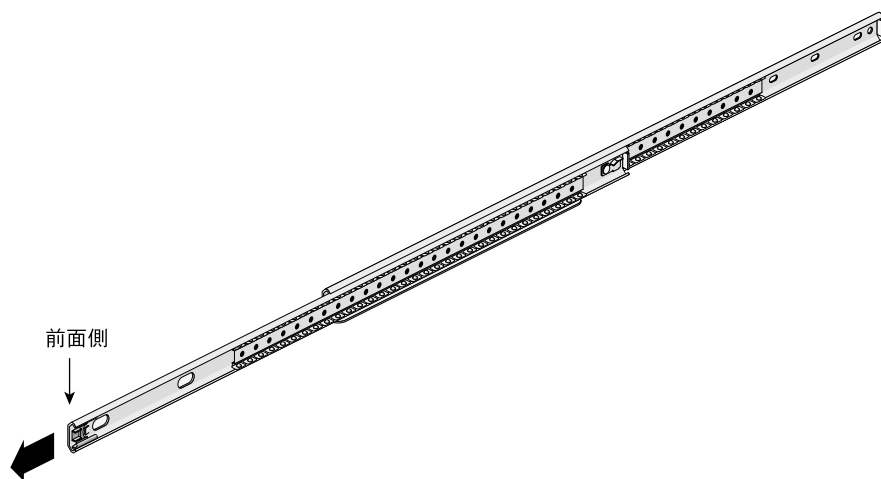


図2-2 スライドの前面側の確認

4. M4xL8 ネジ（表2-2参照）を1つ、スライドの前面側の丸穴に通してから、ブラケットの丸穴（図2-3参照）に通します。前面側の穴にネジを通すには、スライドを少し伸ばす必要があります。
5. ネジをM4止め座金とM4ナット（表2-2参照）に通し、しっかりと締めます。
6. スライドを再度引っ込めてから、M4xL8 ネジをさらに2つ、スライドに設けられた2つの横長の穴に通し、ブラケットの2つのスロット（図2-3参照）に通します。
7. 2つのネジをM4止め座金とM4ナットに通し、しっかりと締めます。

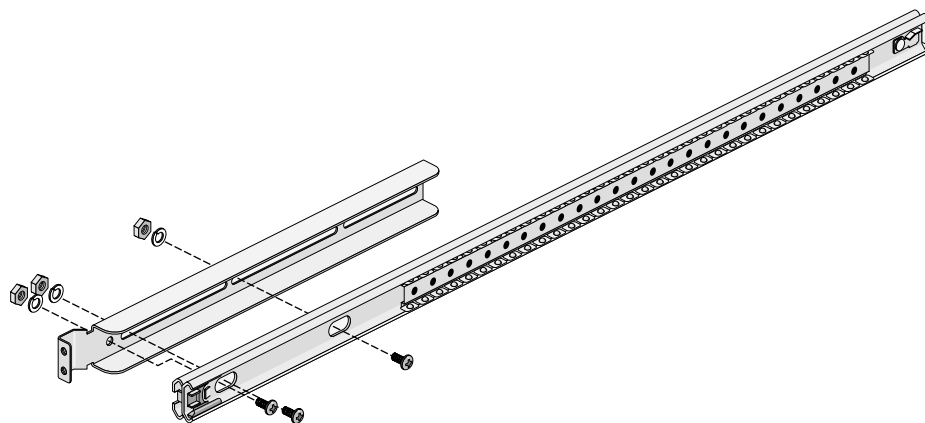


図2-3 前面側のブラケットをスライドに取り付ける

8. スライドを半分ぐらい伸ばします。
9. 3つのM4xL8ネジをスライドの後部にある3つの横長の穴に通してから、ブラケットの後ろ側にある2つのスロット（図2-4参照）に通します。ブラケットの後ろ側の丸穴にはネジを通さないでください。
10. M4止め座金とM4ナットに3つのネジを通し、少しゆるめに締めてください（後でしっかり締めます）。

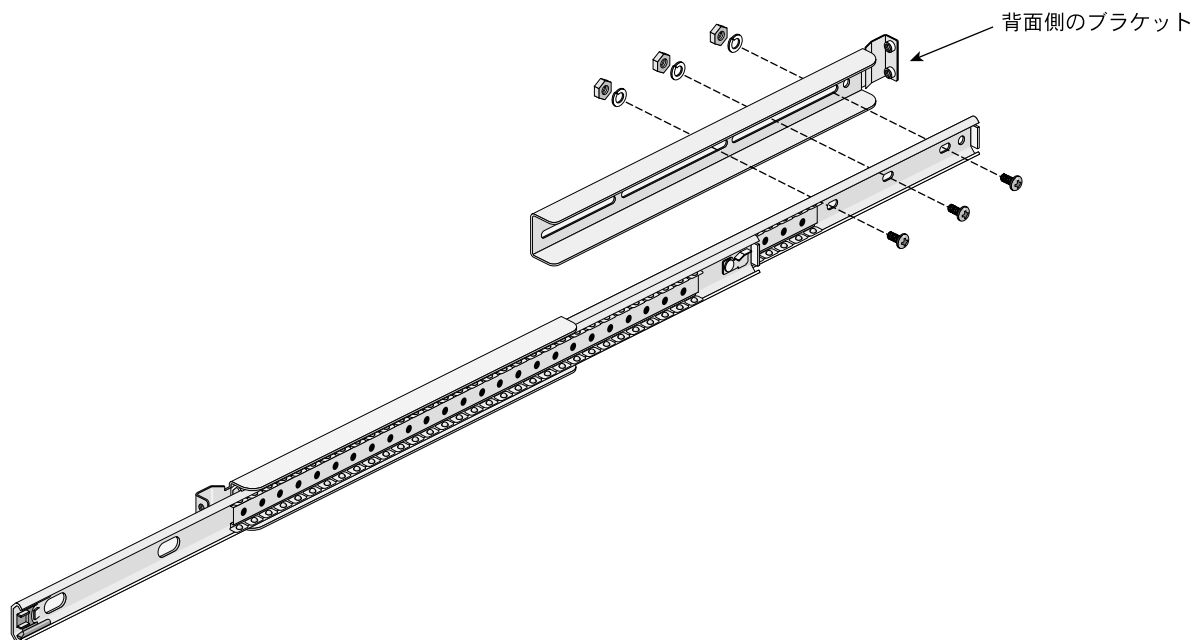


図2-4 背面側のブラケットをスライドに取り付ける

11. 残っている2つのブラケットを使って、1～10の手順を繰り返し、2番目のスライドを組み立てます。

スライドをラックに取り付ける

2つのスライドをSGIラックに取り付けるには、以下の手順に従ってください。

1. 組み立てたスライドの1つを取り、左側前面にあるラックレール上の選択したユニットの下側に設けられた2つの穴に前面側のブラケットを合わせます。
2. 2つの M6xL10 ネジ（表 2-2 参照）を使って、ブラケットをラックレールに固定します（図 2-5 参照）。

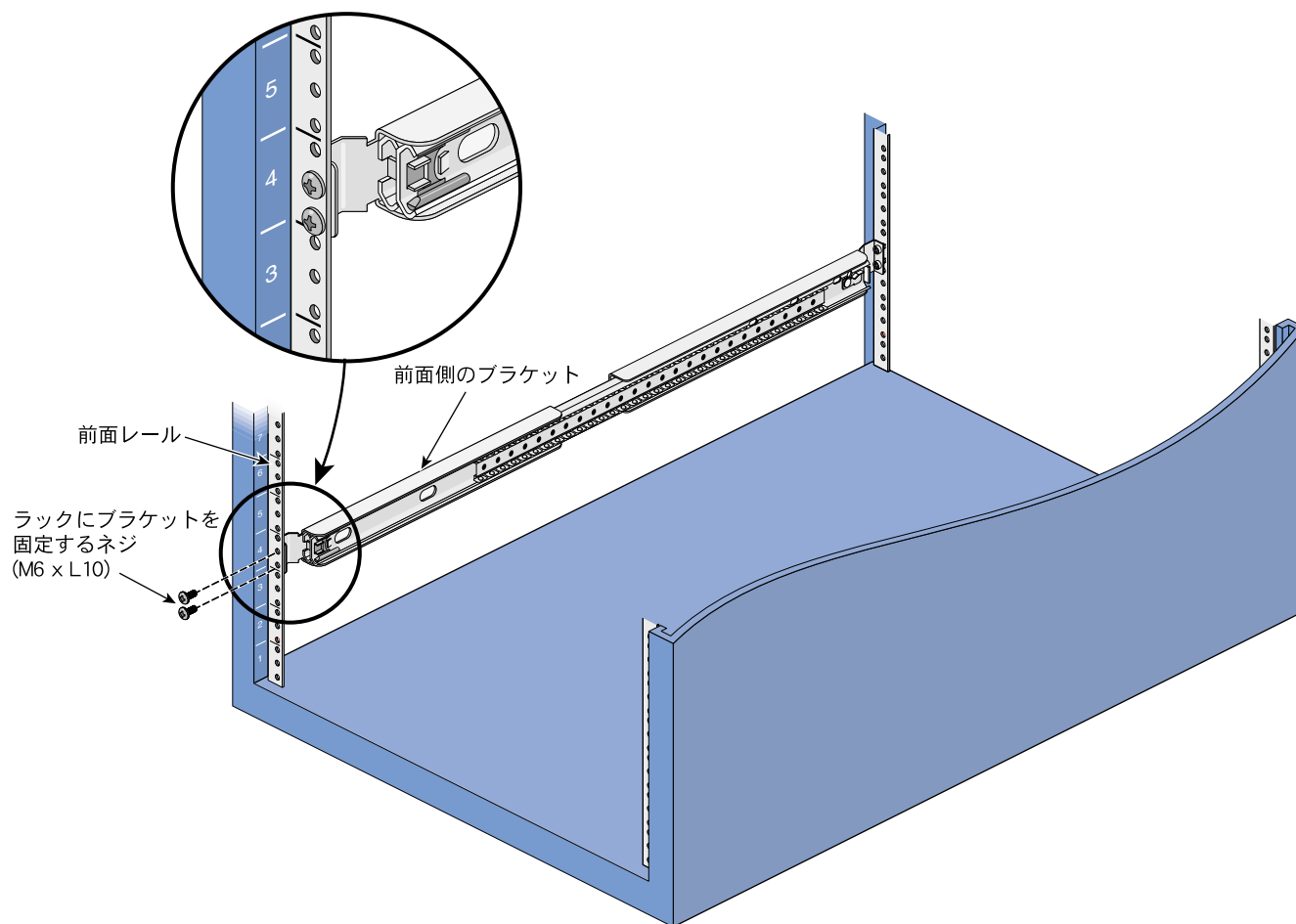


図 2-5 スライドブラケットを前面ラックレールに固定する

3. 左側背面のラックレール上の対応するユニットの下側に設けられた2つの穴に背面側のブラケットを合わせます。
4. 2つのM6xL10ネジを2つ使って、ブラケットをラックレールに固定します（図2-6参照）。

メモ： SGIラック内の位置によっては、電力分配装置 (PDU) を外さないと背面側のブラケットのネジに届かないことがあります。

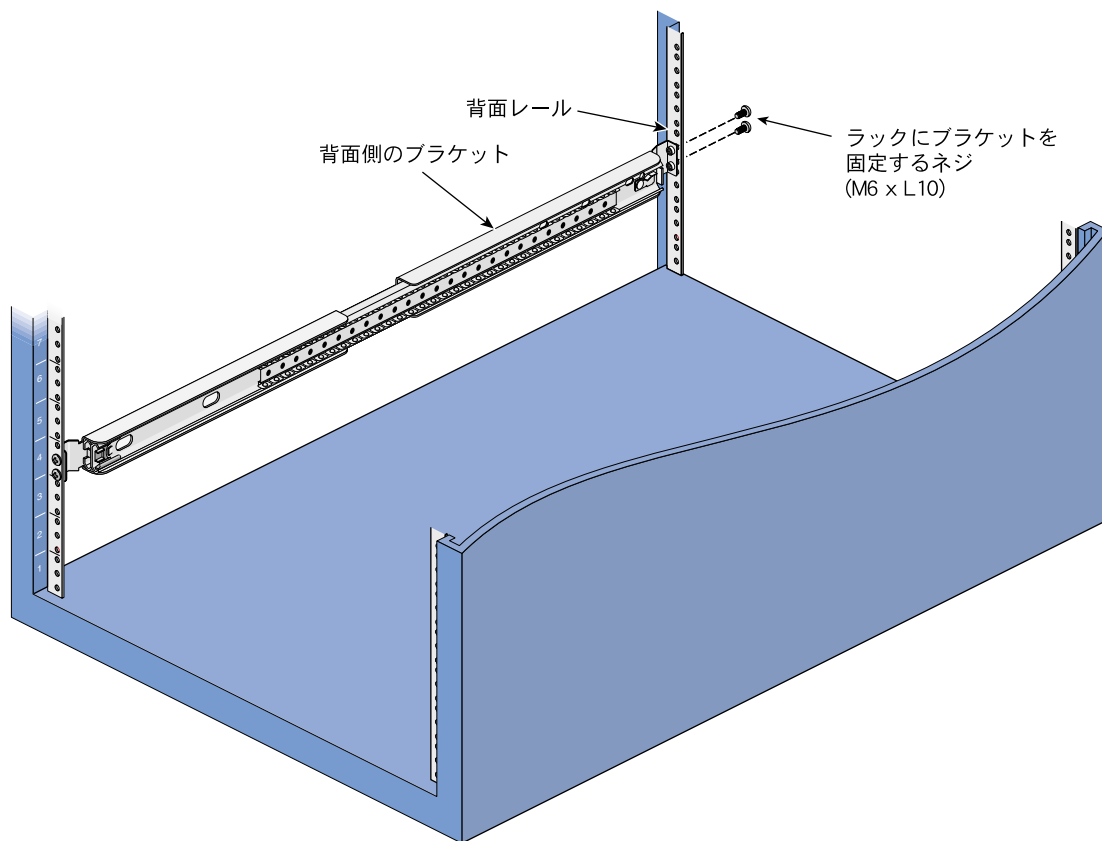


図2-6 スライドブラケットを背面ラックレールに固定する

5. 前面側および背面側のブラケットをラックレールに取り付けたら、背面側のブラケットとスライドを取り付けたときにゆるめに留めておいたネジとナット（3箇所）をしっかりと締めます。
6. 1～5の手順を繰り返し、もう1つのスライドを右側レールに取り付けます。

ケージUナットをラックレールに取り付ける

ケージUナット（表2-2参照）は、システムおよびその他のコンポーネントをラックの垂直レールに固定するために使用します。

前面レール上の選択されたユニットの残っている2つの穴（左右の前面レールに1つずつ）に2つのケージUナットをスライドさせて所定の位置にはめ込みます。詳細については、図2-7を参照してください。

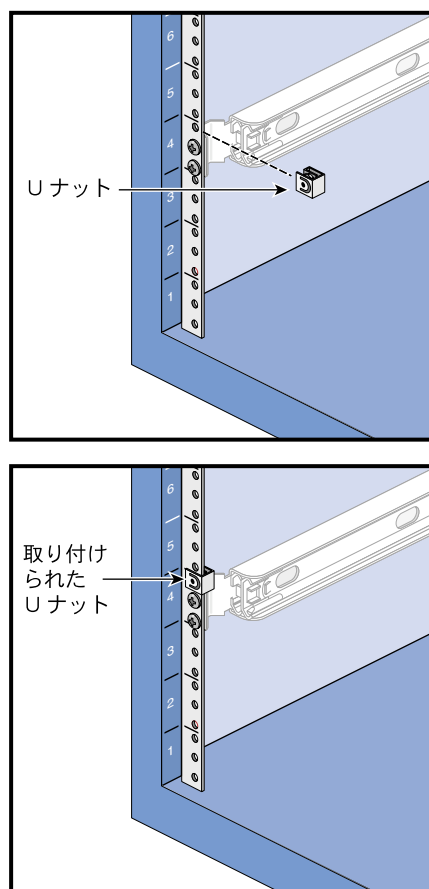


図2-7 ケージUナットをラックレールに取り付ける

SGI 1100 Server をラックに設置するための準備

SGI 1100 をラックに設置するには、以下の手順に従ってください。

1. M4xL5 ネジ（表 2-2 参照）を 4 個使って、本体用レールの 1 本を SGI 1100 Server 本体の右側に取り付けます。レールを正しい方向に取り付けてください（詳細については、図 2-8 を参照してください）。

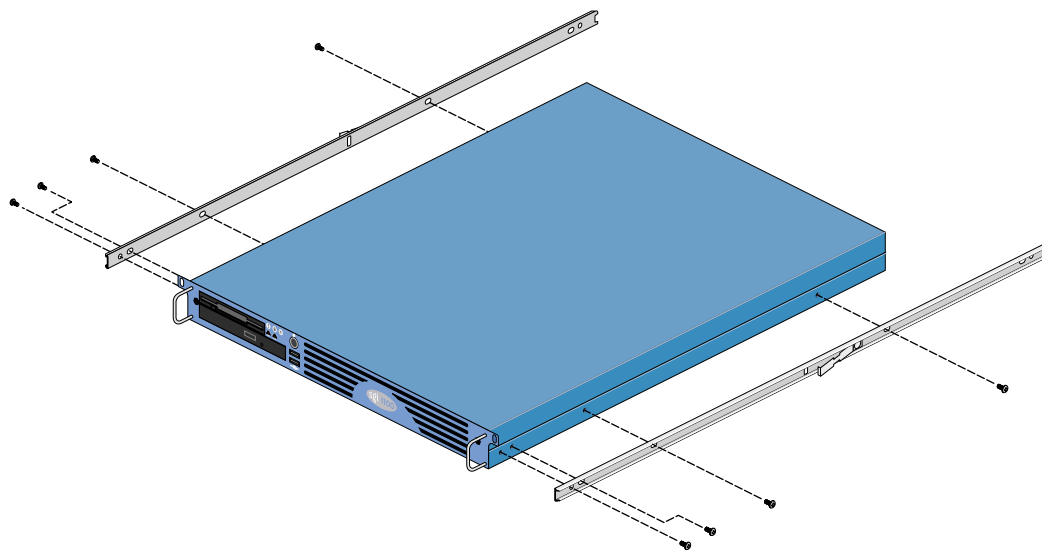


図 2-8 レールを SGI 1100 Server 本体に取り付ける

2. 手順1を繰り返して、もう1本のレールを SGI 1100 Server 本体の左側に取り付けます。

SGI 1100 Server をラックに設置する

SGI 1100 Server をラックに設置するには、次の手順に従ってください。

1. 左右のスライドをラックから十分に伸ばして出します（詳細については、図 2-9 を参照してください）。十分に伸ばすと、カチッと音が鳴って固定されます。

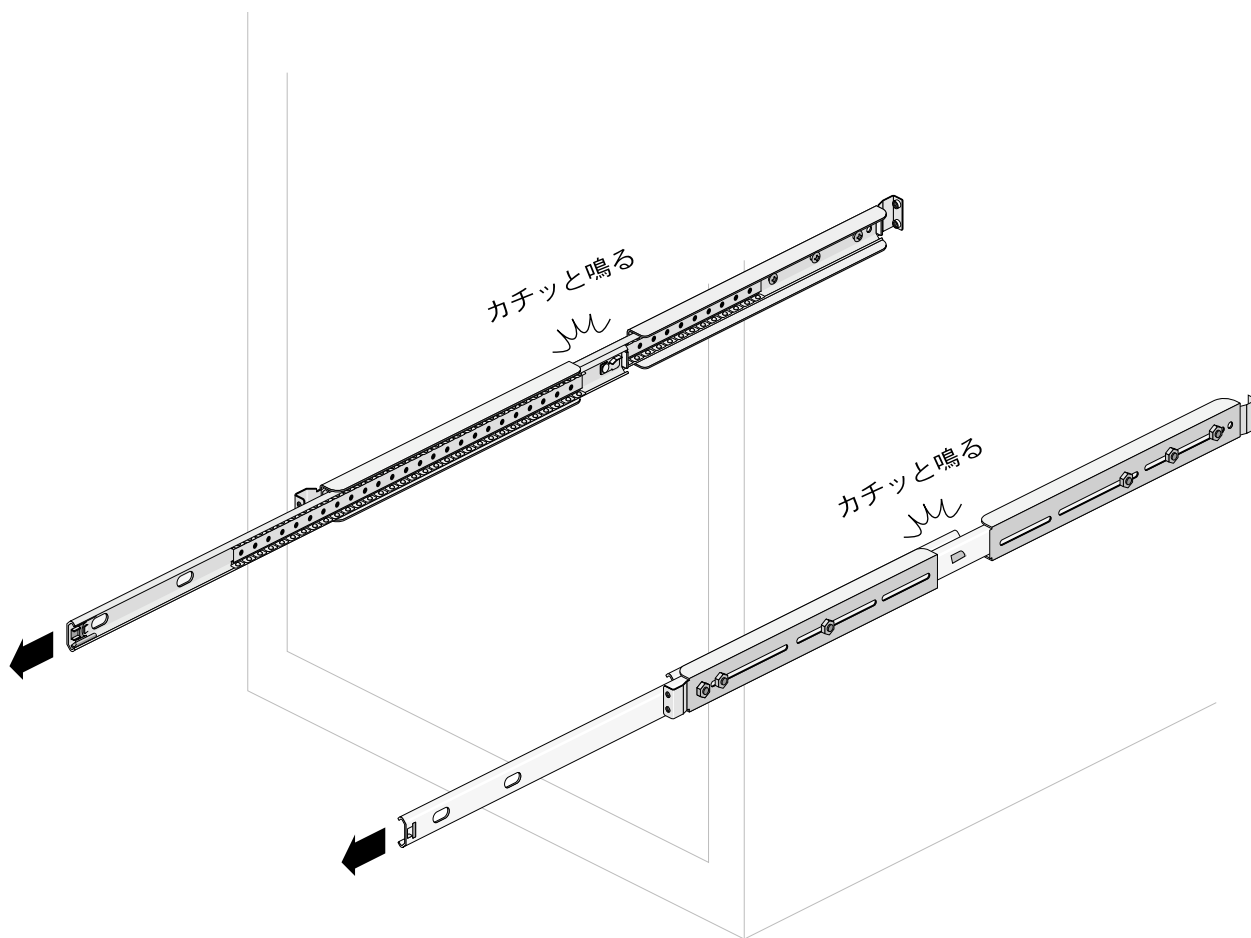


図 2-9 ラックスライドを伸ばす

2. 伸ばしたスライドの中に SGI 1100 Server 本体をスライドさせて、完全に挿入します（詳細については、図2-10を参照してください）。本体が完全に収まるとカチッという音が鳴り、両方のスライドが固定されます。

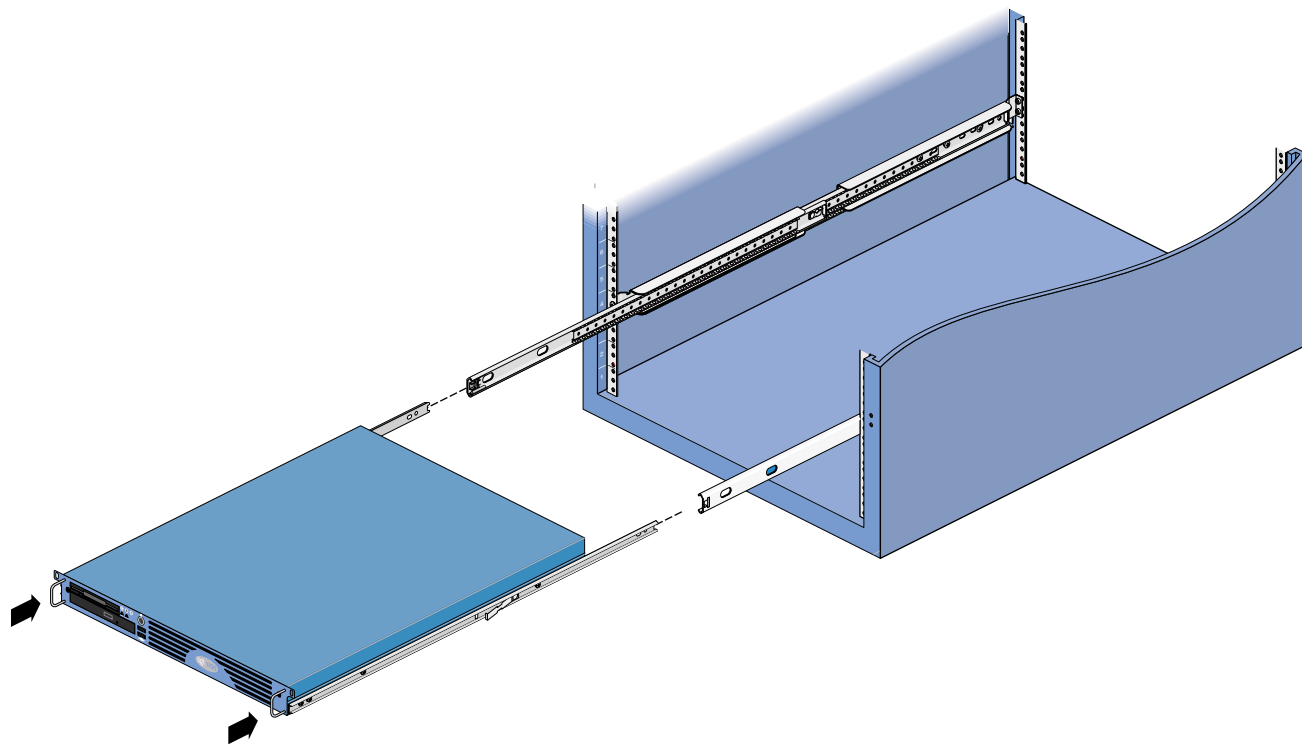


図2-10 本体をラックレールにスライドさせて挿入する

3. 本体の両側のスライドラッチを解除し、本体をラックにスライドさせて挿入します（詳細については、図 2-11 を参照してください）。本体を初めてラックに挿入するときは、ベアリングケージがスライドの中心になっていないため、スライドはかなり動きにくい状態になっています。本体を奥まで挿入すると動きがなめらかになります。

注意：中ほどまで本体を押すと内側のスライドラッチは動きにくくなりますが、さらに押し込むと急に動きやすくなります。この点に注意してください。

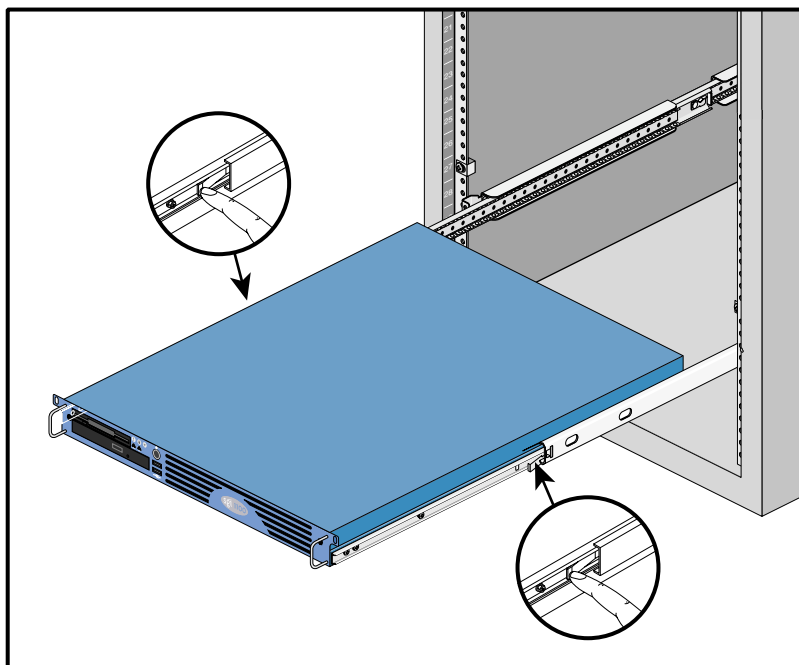


図 2-11 スライドラッチの解除

4. 2つの 10-32 x 0.5 インチネジ（表 2-2 参照）を使って、SGI 1100 Server 本体をラックの U ナット（図 2-1 参照）に固定します。

ラックの電力分配装置

SGI ラックに設置する場合、SGI 1100 Server は、ラックに搭載された電力分配装置 (PDU) に接続します。それぞれの PDU には、10 個の IEC320-C13 10A 電源コンセントが付いています。構成によっては、ラックに 4 個の PDU が接続され、最大 40 個の IEC320-C13 10A 電源コンセントが付くこともあります。

セットアップユーティリティ (Setup Utility)

本章では、システム BIOS に関する情報を記載しています。BIOS パラメータの設定を変更し、システムのコンフィギュレーションを行う方法について説明します。

はじめに

出荷時のシステムは、SGI によって既に設定されています。Run Setup メッセージが表示されない限り、コンピュータ起動時にセットアップ (Setup) を実行する必要はありません。

セットアップ (Setup) プログラムは、CMOS RAM というバッテリーバックアップ式不揮発性メモリに設定値をロードします。このメモリ領域はシステム RAM の一部ではありません。

メモ：Run Setup メッセージが繰り返し表示される場合は、バッテリー不良のおそれがあります。この場合、システムは設定値を CMOS 内に記憶できません。販売代理店に連絡するか、バッテリー交換のできる技術者に相談してください。

セットアップ (Setup) を実行する前に、開いているすべてのファイルを保存してください。セットアップ (Setup) が終了すると、システムは直ちに再起動します。

セットアップ (Setup) の開始

セットアップ (Setup) を開始するには、**Ctrl+Alt+Esc** キーを同時に押します。

メモ：セットアップ (Setup) を開始するには、システムの立ち上げ処理が行われているときに **Ctrl+Alt+Esc** キーを押す必要があります。それ以外の時は、このキーの組み合わせは使用できません。

システムでは、基本 (Basic) レベルおよび詳細 (Advanced) レベルの2種類のセットアップユーティリティ (Setup Utility) をサポートしています。

技術力のあるユーザにとっては、システムの詳細なコンフィギュレーションを確認したい場合があるかもしれません。詳細なシステムコンフィギュレーションは、詳細レベルで確認できます。詳細レベルを表示するには、メインメニューが表示されている状態で **F8** キーを押してください。

[Setup Utility] 画面内を移動するには **↑** および **↓** 矢印キーを使用します。

セットアップ (Setup) 画面が複数ページにわたる場合は、**Page Up** および **Page Down** キーを使用して、次ページへ進んだり、前ページへ戻ることができます。

オプションを選択できる場合、**←** および **→** 矢印キーで選択します。

Esc キーを押すとメインメニューに戻ります。

メモ：本章の図は、すべてセットアップ (Setup) 画面を示しています。パラメータにアスタリスク (*) が付いている場合は、詳細レベルの場合に限りそのパラメータが表示されることを示します。これらのアスタリスクは本書の図に示されているだけで、画面には表示されません。また、画面上に灰色で表示された項目は固定の設定であり、ユーザは設定できません。

図3-1に、基本レベルの [Basic Setup Utility] 画面を示します。

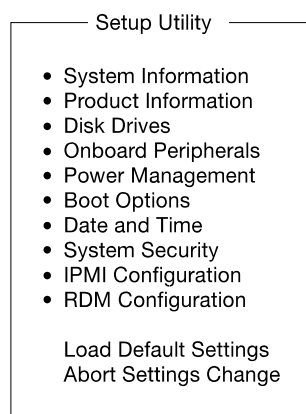


図 3-1 基本レベルの [Basic Setup Utility] 画面

図3-2に、詳細レベルの [Advanced Setup Utility] 画面を示します。

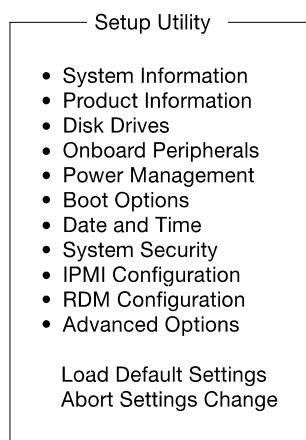


図 3-2 詳細レベルの [Advanced Setup Utility] 画面

システム情報

メインメニューから [System Information] を選択すると、図3-3に示す画面が表示されます。

System Information	
Processor.....	Pentium® III
Processor Speed.....	xxxx MHz
Level 1 Cache.....	32 KB, Enabled
Level 2 Cache.....	256 KB, Enabled
Floppy Drive A.....	1.44MB 3.5-inch
IDE Primary Channel Master.....	Hard Disk, xxxx MB
IDE Primary Channel Slave.....	None
IDE Secondary Channel Master.....	IDE CD-ROM
IDE Secondary Channel Slave.....	None
Total Memory.....	xxxx MB
1st Bank.....	Registered SDRAM, xx MB
2nd Bank.....	Registered SDRAM, xx MB
3rd Bank.....	Registered SDRAM, xx MB
4th Bank.....	Registered SDRAM, xx MB
Serial Port 1.....	3F8h, IRQ 4
Serial Port 2.....	2F8h, IRQ 3
PS/2 Mouse.....	Installed

図3-3 [System Information] 画面

表3-1では、[System Information] のパラメータについて説明します。

表3-1 [System Information] 画面のパラメータ

パラメータ	説明
Processor	現在、システムに取り付けられているプロセッサのタイプ
Processor speed	現在、システムに取り付けられているプロセッサのクロック速度
Level 1 cache size	1次キャッシュ (CPU に内蔵された高速メモリ) の合計容量
Level 2 cache size	2次キャッシュ (大きい方のメモリで、1次キャッシュと同様 CPU に内蔵) の合計容量
Floppy drive A and B	システムの現在のフロッピーディスクドライブ A および B の設定
IDE primary channel master	プライマリ IDE チャンネルに接続されるマスター IDE デバイスの現在のコンフィギュレーション

表 3-1(続き) [System Information] 画面のパラメータ

パラメータ	説明
IDE primary channel slave	プライマリ IDE チャンネルに接続されるスレーブ IDE デバイスの現在の コンフィギュレーション
IDE secondary channel master	セカンダリ IDE チャンネルに接続されるマスター IDE デバイスの現在の コンフィギュレーション
IDE secondary channel slave	セカンダリ IDE チャンネルに接続されるスレーブ IDE デバイスの現在の コンフィギュレーション
Total memory	オンボードメインメモリの合計容量。メモリサイズは、BIOS により POST 時に 自動検出されます。メモリを増設すると、システムが自動的にパラメータを変更 し、新しいメモリサイズを表示します。
1st/2nd/3rd/4th bank	DIMM ソケット 1、2、3、4 に取り付けられている各 DRAM のタイプとサイズ。 [None] と設定されている場合は DRAM が取り付けられていないことを示し ます。
Serial port 1	シリアルポート 1 のアドレスおよび IRQ 設定
Serial port 2	シリアルポート 2 のアドレスおよび IRQ 設定
PS/2 mouse	ポインティングデバイスのインストール設定。ポインティングデバイスが取り付 けられていない場合は [None] と表示されます。

製品情報

[Product Information] 画面には、製品名、シリアル番号、BIOSバージョンなどが表示されます。システムに関するこれらの全般的なデータは、トラブルシューティングに不可欠な情報であり、テクニカルサポートに連絡するときにも必要になる場合があります。

図3-4に、[Product Information] 画面を示します。

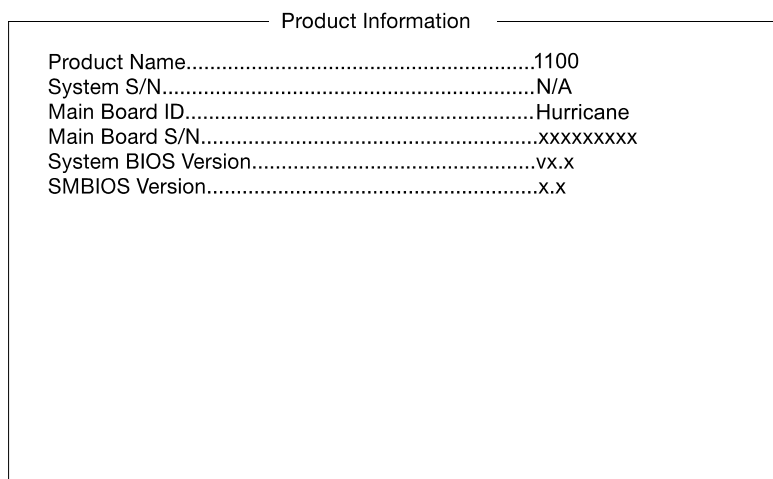


図3-4 [Product Information] 画面

表3-2では、[Product Information] のパラメータについて説明します。

表3-2 [Product Information] 画面のパラメータ

パラメータ	説明
Product name	システムの正式名
System S/N	システムのシリアル番号
Main board ID	メインボードの識別番号
Main board S/N	メインボードのシリアル番号
System BIOS version	BIOSユーティリティのバージョン
SMBIOS version	SMBIOSのバージョン

ディスクドライブ

[Disk Drives] を選択し、フロッピーディスクドライブおよび IDE ディスクドライブのコンフィギュレーション値を入力します。

図3-5に、[Disk Drives] 画面を示します。

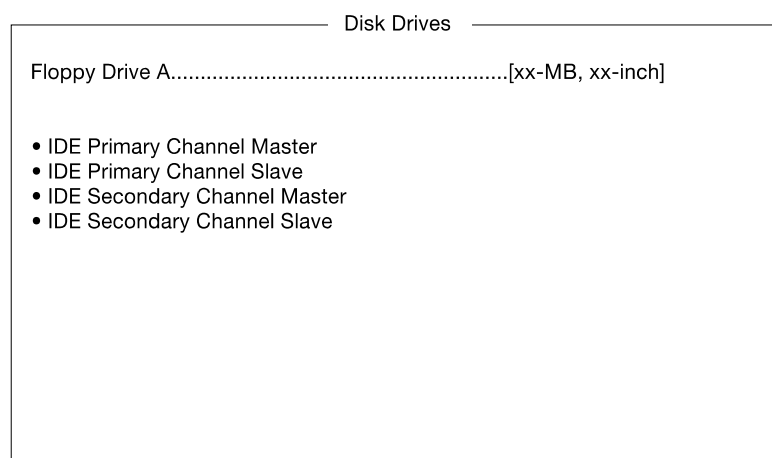


図3-5 [Disk Drives] 画面

表3-3では、[Disk Drives] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-3 [Disk Drives] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Floppy drive A and B	フロッピーディスクドライブのタイプを選択します。	1.44 KB, 3.5 inch None 360 KB, 5.25 inch 1.2 KB, 5.25 inch 720 KB, 3.5 inch 2.88 KB, 3.5 inch

IDE チャンネルタイプ

[IDE Primary Channel Master] パラメータを選択すると、図3-6に示す画面が表示されます。

— IDE Primary Channel Master —

Device Detection Mode.....	[Auto]
Device Type.....	Hard Disk
Cylinder.....	[xxxx]
Head.....	[xx]
Sector.....	[xx]
Size.....	[xxxx] M.B.
Hard Disk LBA Mode.....	[Auto]
*Hard Disk Block Mode.....	[Auto]
*Hard Disk 32 Bit Access.....	[Enabled]
*Advanced PIO Mode.....	[Mode 4]
*DMA Transfer Mode.....	[Disabled]

図3-6 [IDE Primary Channel Master] 画面

メモ: パラメータにアスタリスク (*) が付いている場合は、詳細レベルの場合に限りそのパラメータが表示されることを示します。詳細レベルを表示する方法については、32 ページの「セットアップ (Setup) の開始」を参照してください。

表3-4では、[IDE Drive]のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-4 [IDE Drive] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Device detection mode	システムに取り付けられているハードディスクのタイプをここで指定します。BIOSにより自動的にハードディスクのコンフィギュレーションを行う場合は[Auto]を選択します。ハードディスクのタイプが分かっている場合は、設定を手動で入力できます。	Auto User None
Device type	ハードディスクタイプデバイスを示します。	
Cylinder	ハードディスクのシリンダ数を指定します。この数値は、Typeパラメータの設定に従って自動的に設定されます。	ユーザ入力
Head	ハードディスクのヘッド数を指定します。この数値は、Typeパラメータの設定に従って自動的に設定されます。	ユーザ入力
Sector	ハードディスクのセクタ数を指定します。この数値は、Typeパラメータの設定に従って自動的に設定されます。	ユーザ入力
Size	ハードディスクの容量をMB単位で指定します。	ユーザ入力
Hard disk LBA mode	この拡張IDE機能により、システムでは528MB以上の記憶容量をもつハードディスクが使用できるようになっています。これは、論理ブロックアドレス(LBA)モード変換により実現されます。LBAは、528MB以上の記憶容量をサポートできるため、現在のIDEハードディスクの標準機能となっています。LBA OnでHDDをフォーマットしたら、LBA Offでは起動できないことに注意してください。	Auto Disabled
Hard disk block mode	この機能は、ご使用のハードディスクの種類により、ディスクパフォーマンスを向上させます。このパラメータを[Auto]に設定すると、取り付けられているハードディスクドライブがロックモード機能をサポートしている場合、それがBIOSユーティリティにより自動検出されます。この機能がサポートされている場合は、1サイクル当たり256バイトの割合でブロック(複数セクタ)化されたデータが転送されます。この機能を無視するには、設定を[Disabled]に変更します。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	Auto Disabled
Hard disk 32-bit access	このパラメータを[Enabled]に設定すると、32ビットハードディスクアクセスの使用が可能となり、システムのパフォーマンスが向上します。この拡張IDE機能は、特定のオペレーティングシステムでのみ有効です。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	Enabled Disabled

表 3-4(続き) [IDE Drive] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Advanced PIO mode	[Auto] に設定すると、取り付けられているハードディスクがこの機能をサポートしている場合は、それが BIOS ユーティリティにより自動検出されます。この機能がサポートされていると、より高速なデータ回復と読み取り / 書き込みタイミングが得られ、ハードディスクの動作時間を削減できます。その結果、ハードディスクのパフォーマンスが向上します。この機能を無視するには、設定を [Disabled] に変更します。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	Auto Mode 0 Mode 1 Mode 2 Mode 3 Mode 4 Disabled
DMA transfer mode	Ultra DMA および Multi-DMA モードは、転送速度を上げて、ハードディスクのパフォーマンスを向上させます。しかし、BIOS Setup によってこれらの機能を使用可にするとともに、Ultra DMA と Multi-DMA の両方のモードで DMA ドライバをロードする必要があります。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	Auto Multi word mode 0、1、2 Ultra Mode 0、1、2、3、4 Disabled

[IDE Primary Channel Slave] パラメータを選択すると、図 3-7 に示す画面が表示されます。この画面のパラメータは、表 3-4 で説明されているものと同じです。

IDE Primary Channel Slave	
Device Detection Mode.....	[Auto]
Device Type.....	None
Cylinder.....	[xxxx]
Head.....	[xx]
Sector.....	[xx]
Size.....	[xxxx] M.B.

図 3-7 [IDE Primary Channel Slave] 画面

[IDE Secondary Channel Master] 画面と [IDE Secondary Channel Slave] 画面は、図 3-6 と図 3-7 に示す画面と同様であり、パラメータは、表 3-4 で説明されているものと同じです。

オンボード周辺装置

図 3-8 に示す [Onboard Peripherals] 画面では、オンボードの通信ポートおよびデバイスを設定できます。

Onboard Peripherals	
Serial Port 1.....	[Enabled]
Base Address.....	[3F8h]
IRQ.....	[4]
Serial Port 2.....	[Enabled]
Base Address.....	[2F8h]
IRQ.....	[3]
Floppy Disk Controller.....	[Enabled]
IDE Controller.....	[Both]
PS/2 Mouse Controller.....	[Enabled]
USB Host Controller.....	[Enabled]
USB Legacy Mode.....	[Disabled]
Onboard Ethernet Chip 1.....	[Enabled]
Onboard Ethernet Chip 2.....	[Enabled]

図 3-8 [Onboard Peripherals] 画面

表 3-5 では、[Onboard Peripherals] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表 3-5 [Onboard Peripherals] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Serial port 1	シリアルポート 1 を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Base address	シリアルポート 1 の I/O ベースアドレスを設定します。	3F8h 2F8h 3E8h 2E8h
IRQ	シリアルポート 1 の IRQ (割り込み要求) チャンネルを設定します。	4 11

表 3-5(続き) [Onboard Peripherals] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Serial port 2	シリアルポート 2 を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Base address	シリアルポート 2 の I/O ベースアドレスを設定します。	2F8h 3F8h 3E8h 2E8h
IRQ	シリアルポート 2 の IRQ (割り込み要求) チャンネルを設定します。	3 10
Floppy disk controller	オンボードのフロッピーディスクコントローラを使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
IDE controller	オンボードの IDE コントローラを使用可または使用不可にします。	Both Primary Disabled
PS/2 mouse controller	オンボードの PS/2 マウスコントローラを使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
USB host controller	オンボードの USB コントローラを使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
USB legacy mode	使用可にすると、DOS 上で USB キーボードを使用できます。DOS 上で USB キーボードを使用できないようにするには [Disabled] に設定します。	Disabled Enabled
Onboard Ethernet chip 1	1 番目のオンボードのネットワーク機能を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Onboard Ethernet chip 2	2 番目のオンボードのネットワーク機能を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled

パワーマネージメント

[Power Management] 画面では、システムのパワーマネージメント機能のコンフィギュレーションを行うことができます。図3-9に、[Power Management] のパラメータおよびそれらのデフォルト設定を示します。

Power Management	
Power Management Mode.....	[Enabled]
IDE Hard Disk Standby Timer.....	[Off]
System Sleep Timer.....	[Off]
Sleep Mode.....	[------]
Power Switch <4 sec.	[Power Off]
System wake-up event	
Modem Ring Indicator.....	[Disabled]
PCI Power Management.....	[Enabled]
RTC Alarm.....	[Disabled]
Resume Day.....	[--]
Resume Time.....	[--:--:--]
Restart on AC Power Failure.....	[Pre-state]

図3-9 [Power Management] 画面

表3-6では、[Power Management]のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-6 [Power Management] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Power management mode	電力消費を削減するよう設定できます。このパラメータを [Enabled] に設定すると、IDE ハードディスクおよびシステムタイマーのコンフィギュレーションを行うことができます。[Disabled] に設定すると、パワーマネージメント機能およびタイマーは動作しません。	Enabled Disabled
IDE hard disk standby timer	1分から15分までの間で設定された時間非動作状態が続くと、ハードディスクをスタンバイモードにできます。ハードディスクに再度アクセスすると、(ハードディスクにより異なりますが) 3秒から5秒で標準速度に戻ります。ハードディスクでこの機能をサポートしていない場合は、このパラメータをオフに設定してください。	Off 1 ~ 15 分
System sleep timer	指定された時間非動作状態が続くと、システムを最低限の節電モードになるように設定します。キーボードやマウスの動作、またはそれ以外の何らかの動作が IRQ チャンネルから検出されると、システムは動作を再開します。	Off 2 ~ 120 分
Sleep mode	指定された時間非動作状態が続くとシステムが節電モードに移行しますが、そのときの節電モードのタイプを指定します。このパラメータは、System Sleep Timer が On の場合に限り設定可能です。キーボードやマウスの動作、または監視対象の有効な動作が IRQ チャンネルから検出されると、システムは動作を再開します。	Standby Suspend
Power switch < 4 sec.	[Power Off] に設定すると、電源スイッチを押す時間が 4 秒以内の場合にもシステムが自動的に停止します。[Suspend] に設定すると、電源スイッチを押す時間が 4 秒以内の場合は、システムがサスペンドモードになります。	Power off Suspend
System wake-up event	システム起動イベントにより、モデムリングインジケータが使用可能になると、システムが動作を再開します。	
Modem ring indicator	[Enabled] の場合は、ファックス / モデムが動作すると、システムがサスペンドモードから戻って動作を再開します。	Disabled Enabled
PCI power management	PCI パワーマネージメント機能を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
RTC alarm	特定の日付の特定の時刻にサスペンドモードから起動するようシステムを設定できます。	Disabled Enabled

表 3-6(続き) [Power Management] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Resume day	RTC alarm が [Enabled] になっている場合は、ここで指定された日付になるとシステムが動作を再開します。	ユーザ入力
Resume time	RTC alarm が [Enabled] になっている場合は、ここで指定された時刻になるとシステムが動作を再開します。	ユーザ入力
Restart on AC power failure	電源が落ちたときに、システムを再起動します。[Disabled] に設定している場合は、電源が落ちたときでもシステムを自動的に再起動しません。	Pre-state Enabled Disabled

起動オプション

[Boot Options] 画面では、起動時の設定を指定できます。メインメニューから [Boot Options] を選択すると、図 3-10 に示す画面が表示されます。

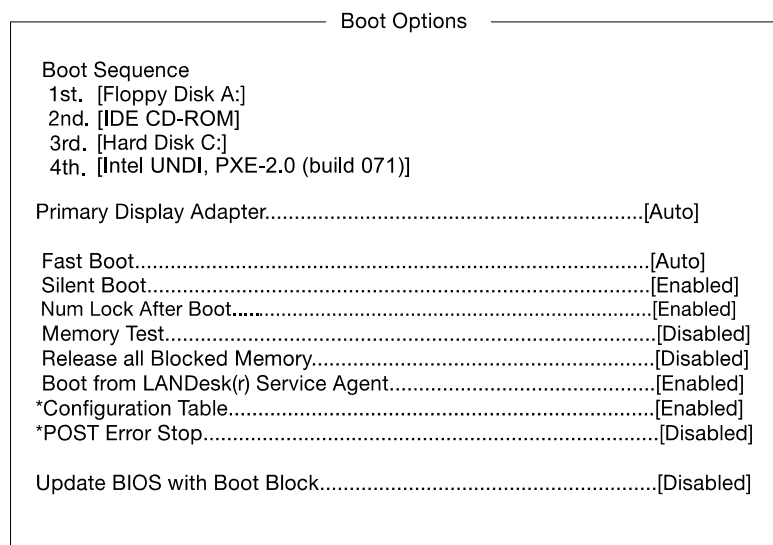


図 3-10 [Boot Options] 画面

メモ: パラメータにアスタリスク (*) が付いている場合は、詳細レベルの場合に限りそのパラメータが表示されることを示します。詳細レベルを表示する方法については、32 ページの「セットアップ (Setup) の開始」を参照してください。

表3-7では、[Boot Options]のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-7 [Boot Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Boot sequence	このパラメータにより、POST 処理中の起動検索シーケンスを指定できます。 1st: システムは 1 番目にこのドライブを確認します。 2nd: 1 番目のドライブから起動できない場合、システムはこのドライブからの起動を試みます。 3rd: 1 番目のドライブからも 2 番目のドライブからも起動できない場合、システムは次にこのドライブからの起動を試みます。 4th: 1 番目、2 番目、3 番目いずれのドライブからも起動できない場合、システムは次にこのドライブからの起動を試みます。 指定されたどのドライブからも起動できない場合は、BIOS はエラーメッセージを表示します。	
Primary display adapter	オンボードのビデオコントローラをプライマリディスプレイアダプタとして起動できます。または、ご使用のシステムにビデオカードが取り付けられていることが BIOS により検出された場合、オンボードのビデオコントローラを自動的に使用不可にできます。	Onboard Auto
Fast boot	いくつかの POST ルーチンを省略することにより、高速にシステムを起動させることができます。	Disabled Auto
Silent boot	サイレント起動機能を使用可または使用不可にします。[Enabled] に設定すると、POST 処理中または起動中は、BIOS はグラフィカルモードとなり、識別ロゴだけが表示されます。起動が完了すると、(DOS などの) オペレーティングシステムプロンプトまたは (Windows NT などの) ログがスクリーン上に表示されます。起動中にエラーが発生した場合は、システムは自動的にテキストモードに切り替わります。 [Enabled] に設定されている場合でも、画面上に「Press DELETE key to enter Setup」メッセージが表示されたときに Delete キーを押すと、起動中にテキストモードへ切り替えることができます。 [Disabled] に設定すると、BIOS は通常のテキストモードになり、画面上でシステム初期化の詳細を確認できます。	Enabled Disabled
Num Lock after boot	起動時に Num Lock 機能をアクティブにします。	Enabled Disabled
Memory test	[Enabled] に設定すると、システムは POST 処理中に RAM テストを行います。[Disabled] に設定すると、システムはメモリサイズだけを検出し、テストは行いません。	Disabled Enabled

表 3-7(続き) [Boot Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Release all blocked memory	[Enabled] に設定すると、システムは早期に検出された不良メモリバンクのテストを行いません。	Disabled Enabled
Boot from LANDesk service agent	[Enabled] に設定すると、システムは、ご使用のデスクトップシステムではなく、LANDesk サービスエージェントネットワークから起動します。LANDesk サービスエージェントは IEEE 規格に基づくコードであり、起動プロセスに介入します。詳細については、ご使用の LANDesk のマニュアルを参照してください。 [Disabled] に設定すると、システムは、Boot sequence パラメータに指定されたドライブから起動します。	Enabled Disabled
Configuration table	[Enabled] に設定すると、起動前のシステムコンフィギュレーションテーブルが表示されます。	Enabled Disabled
Post error stop	[Enabled] に設定すると、POST 処理中にエラーが発生した場合、システムは自動的に停止します。継続するには F1 を押します。[Disabled] に設定すると、POST 処理中にエラーが発生しても、システムは停止しません。	Disabled Enabled
Update BIOS with boot block	[Enabled] に設定すると、システムが起動に失敗したときに、ハードディスクドライブから BIOS ファイルを自動的にフラッシュ (再プログラミング) します。	Disabled Enabled

日付および時刻

リアルタイムクロックでは、システム日付および時刻を保持しています。一度日付および時刻を設定すれば、システムを起動させるたびに入力する必要はありません。内部バッテリーが作動している（およそ7年間）限り、このクロックには、システム電源がオフの間も正確に日付および時刻が保持されます。図3-11に [Date and Time] 画面を示します。

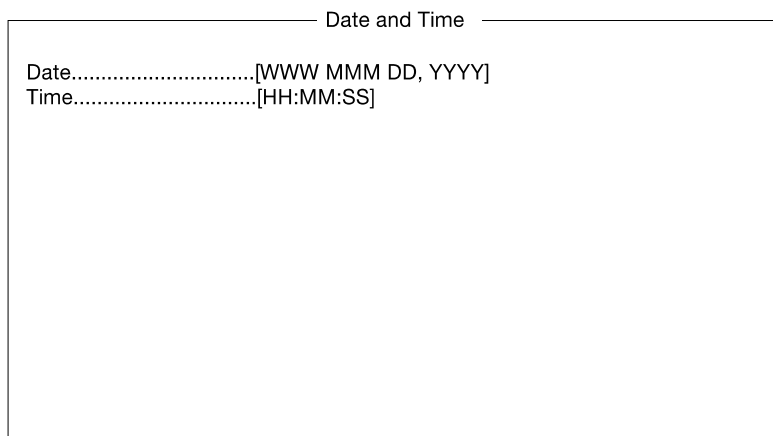


図3-11 [Date and Time] 画面

表3-8では、[Date and Time]のパラメータについて説明します。

表 3-8 [Date and Time] 画面のパラメータ

パラメータ	説明
Date	曜日 - 月 - 日 - 年の形式で日付を設定します。曜日、月、日および年の有効値は以下のとおりです。 曜日：Sun、Mon、Tue、Web、Thu、Fri、Sat 月：Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec 日：1～31 年：1980～2079
Time	時 - 分 - 秒の形式で時刻を設定します。時、分および秒の有効値は以下のとおりです。 時：00～23 分：00～59 秒：00～59

システムセキュリティ

セットアップ (Setup) プログラムでは、不正なアクセスからシステムやデータを保護するために、多数のセキュリティ機能を備えています。[Setup Utility]画面から [System Security] を選択すると、図3-12に示す画面が表示されます。

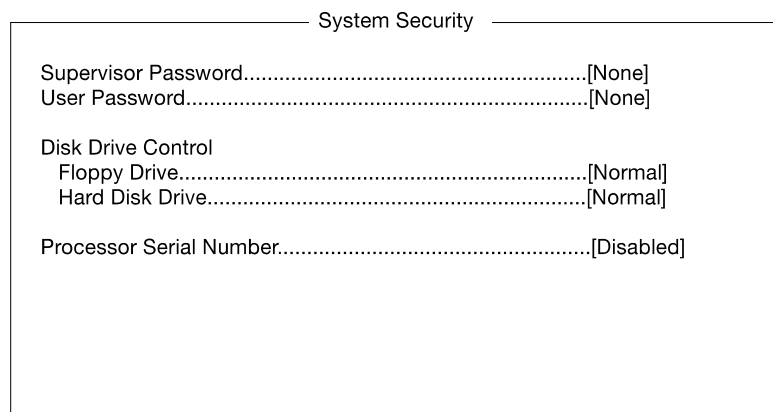


図3-12 [System Security] 画面

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードを使用して、BIOS ユーティリティへの不正なアクセスを防ぐことができます。

メモ：スーパーバイザパスワードの変更は、訓練を受けたサービス担当者、またはシステム管理者だけが行ってください。

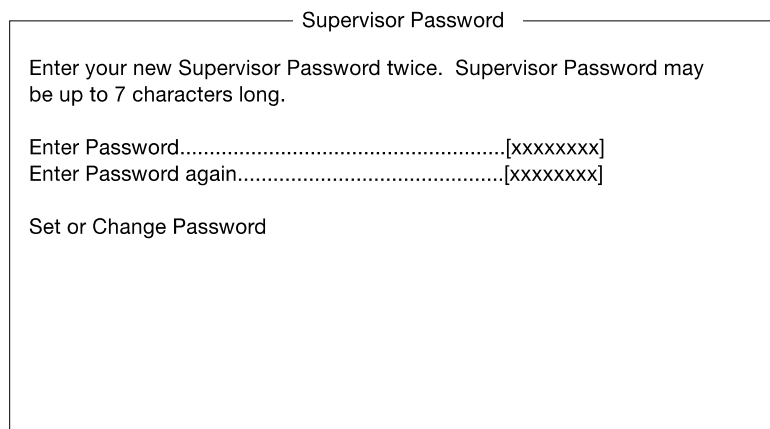
パスワードの設定および変更

パスワードの設定または変更を行うには、次の手順に従ってください。

1. ジャンパの JP8 が 1-2 (パスワードチェックを行わない) に設定されていることを確認します。ジャンパ設定を変更するには、システム本体を開ける必要があります。従って、この作業は、訓練を受けたサービス担当者だけが行ってください。この作業については、「SGI 1100 Server Maintenance and Upgrades Guide (007-4047-001)」で詳しく述べられています。

メモ： セットアップ (Setup) のパスワードが存在せず、ジャンパの JP8 が 2-3 (パスワードチェックを行う) に設定されている場合は、BIOS ユーティリティにアクセスすることはできません。デフォルトでは、ジャンパの JP8 は 1-2 (パスワードチェックを行わない) に設定されています。

2. ←キーまたは→キーを押して、[System Security] メニュー上の [Supervisor Password] パラメータを使用可にします。図3-13に示す Supervisor Password 画面が表示されます。



Supervisor Password

Enter your new Supervisor Password twice. Supervisor Password may be up to 7 characters long.

Enter Password.....[xxxxxxx]
Enter Password again.....[xxxxxxx]

Set or Change Password

図3-13 [Supervisor Password] 画面

3. [Enter Password] フィールドにパスワードを入力します。パスワードには、7文字まで指定できます。
4. **Enter** キーを押します。最初の入力正しいことを確認するため、[Enter Password] フィールドにパスワードを再入力します。
5. [Set or Change Password] を強調表示させて **Enter** キーを押します。

6. **Esc** キーを押すと [System Security] メニューに戻ります。もう一度 **Esc** キーを押すとセットアップ (Setup) が終了します。図3-14に示す **Exit Setup** 画面が表示されます。

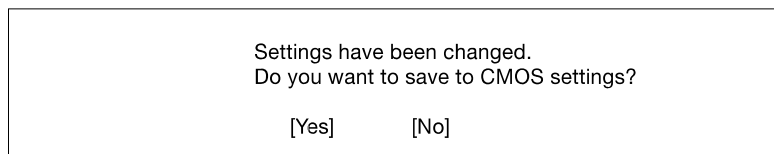


図3-14 [Exit Setup] 画面

7. [Yes] を選択して設定を保存し、セットアップ (Setup) を終了します。パスワードは CMOS に保存されます。

パスワードを有効にするには、ジャンパの JP8 を 2-3 (パスワードチェックを行う) に設定する必要があります。ジャンパ設定を変更するには、システム本体を開ける必要があります。従って、この作業は、訓練を受けたサービス担当者だけが行ってください。この作業については、「SGI 1100 Server Maintenance and Upgrades Guide (007-4047-001)」で詳しく述べられています。

次回 BIOS ユーティリティにアクセスするときは、スーパーバイザパスワードを入力する必要があります。

パスワードの解除

スーパーバイザパスワードを解除するには、次の手順に従ってください。

1. ←または→矢印キーを押して [None] を選択し、[System Security] メニュー上の [Supervisor Password] パラメータを使用不可にします。
2. **Esc** キーを押すと [System Security] メニューに戻ります。もう一度 **Esc** キーを押すとセットアップ (Setup) が終了します。図3-15に示す **Exit Setup** 画面が表示されます。

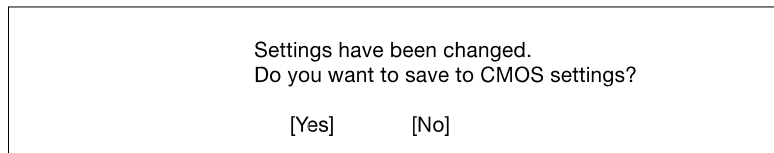


図3-15 [Exit Setup] 画面

3. [Yes] を選択して設定を保存し、セットアップ (Setup) を終了します。前に設定したパスワードはCMOSから削除されます。

メモ： スーパーバイザパスワードを解除する場合、ジャンパのJP8が1-2（パスワードチェックを行わない）に設定されている必要があります。スーパーバイザパスワードが存在せず、ジャンパのJP8が2-3（パスワードチェックを行う）に設定されている場合、セットアップ (Setup) ユーティリティにアクセスすることができないからです。ジャンパ設定の変更は、訓練を受けたサービス担当者だけが行ってください。

スーパーバイザパスワードのチェックを行わないようにするには

スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、ジャンパのJP8の設定を1-2（パスワードチェックを行わない）に変更することによって、パスワードセキュリティ機能がチェックされないようにできます。ジャンパ設定を変更するには、システム本体を開ける必要があります。従って、この作業は、訓練を受けたサービス担当者だけが行ってください。この作業については、「SGI 1100 Server Maintenance and Upgrades Guide (007-4047-001)」で詳しく述べられています。

ユーザパスワード

ユーザパスワードを設定することで、不正なアクセスからシステムを保護できます。このパスワードを設定すると、システム起動時にはいつもこのパスワードを入力する必要があります。このパスワードを設定するには、セットアップ (Setup) ユーティリティを表示して [System Security] を選択し、[User Password] パラメータを強調表示させます。図3-16を参照し、52ページの「スーパーバイザパスワード」の設定と同じ手順を行ってください。

メモ：ユーザパスワードの変更は、訓練を受けたサービス担当者、またはシステム管理者だけが行ってください。

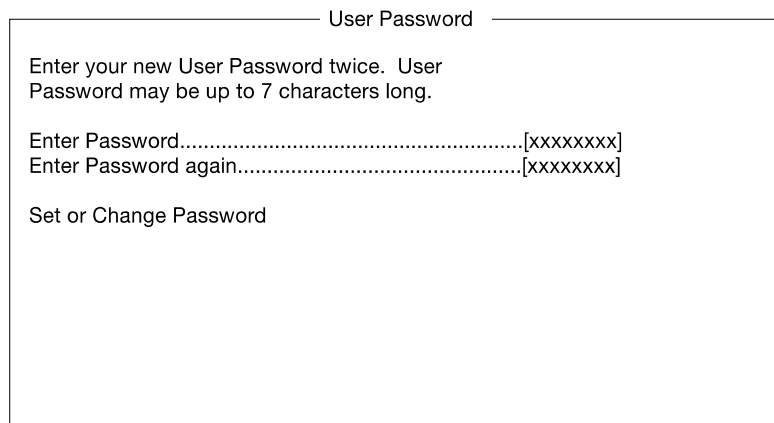


図3-16 [User Password] 画面

メモ：ユーザパスワードを有効にするには、ジャンパの JP8 を 2-3 に設定する必要があります。ジャンパ設定を変更するには、システム本体を開ける必要があります。従って、この作業は、訓練を受けたサービス担当者だけが行ってください。この作業については、「SGI 1100 Server Maintenance and Upgrades Guide (007-4047-001)」で詳しく述べられています。

ディスクドライブコントロール

ディスクドライブコントロール機能は、フロッピーディスクドライブまたはハードディスクドライブの起動機能をコントロールし、他のドライブが動作中に、特定のドライブからオペレーティングシステムまたは他のプログラムがロードされるのを防止します（DOSモードの場合のみ）。

フロッピーディスクドライブおよびハードディスクドライブ

[Disk Drive Control] の設定を変更するには、[System Security] メニューの [Floppy Drive] または [Hard Disk Drive] パラメータを強調表示させます。図 3-17 に、[System Security] 画面を示します。表 3-9 に示す 3 つの設定値のいずれかを選択するには、←または→矢印キーを押します。

System Security

Supervisor Password.....[None]
 User Password.....[None]

Disk Drive Control
 Floppy Drive.....[Normal]
 Hard Disk Drive.....[Normal]

Processor Serial Number.....[Disabled]

図 3-17 [System Security] 画面

表 3-9 では、[Disk Drive Control] の設定値について説明します。

表 3-9 [Disk Drive Control]

設定値	説明
Normal	フロッピーディスクドライブまたはハードディスクドライブは正常に機能します。
Write protect all sectors	すべてのセクタで書き込み機能を使用不可とします。
Write protect boot sector	起動セクタでのみ書き込み機能を使用不可とします。

プロセッサのシリアル番号

Pentium III プロセッサの各チップには、個々の CPU を識別するための個別のシリアル番号がついています。[Enabled] に設定すると、プロセッサのシリアル番号によって CPU を識別することができます。このパラメータを [Disabled] に設定すると、この機能は動作しません。

[Processor Serial Number] パラメータを [Enabled] または [Disabled] に設定するには、そのパラメータを [System Security] メニューで強調表示します。図3-17に、[System Security] 画面を示します。←または→矢印キーを押して、設定値を選択します。

IPMI (Intelligent Platform Management Interface) の設定

システムの温度変化やファンの停止など、ご使用のシステムで発生するイベントを、システムイベントログによって記録および監視することができます。ご使用のシステムのイベント処理に適した設定を、システムイベントログによって指定することもできます。

図3-18に、[IPMI Configuration] 画面を示します。

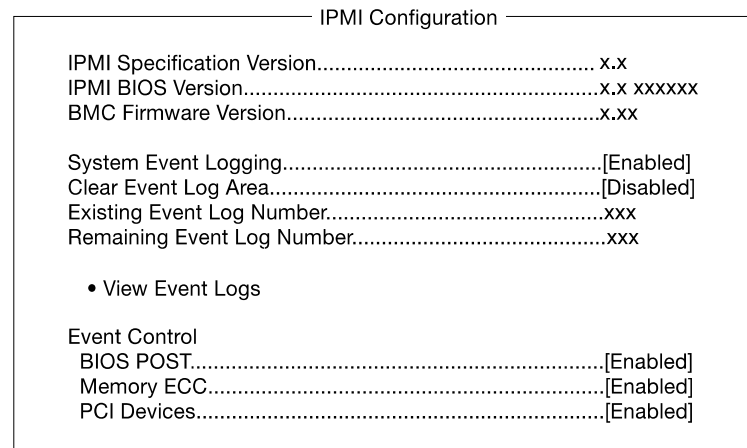


図3-18 [IPMI Configuration] 画面

表3-10では、[IPMI Configuration] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-10 [IPMI Configuration] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
IPMI specification version	IPMI のバージョンを指定します。	
IPMI BIOS version	IPMI BIOS のバージョンを示します。	
BMC firmware version	BMC (Specifies the version of BaseBoard Management Controller) ファームウェアのバージョンを指定します。	

表 3-10(続き) [IPMI Configuration] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
System event logging	ご使用のシステムのイベントログ機能を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Clear event log area	イベントログ領域が一杯になるたびにイベントログをクリアします。	Disabled Enabled
Existing event log number	現在イベントログ領域にあるイベントの数を示します。	
Remaining event log number	システムイベントの記録に使用できる残りの領域の数を示します。	
View event logs	表示するシステムイベントログファイルを開きます。	
Event control		
BIOS POST	BIOS は POST 処理中に、プロセッサおよびメモリモジュールの不良がないかどうかをチェックします。このパラメータが [Enabled] に設定されている場合、プロセッサまたはメモリの不良が検出されると、BIOS は POST 処理を停止します。[Disabled] に設定されている場合、システムは処理を継続します。	Enabled Disabled
Memory ECC	メモリ内外にデータを渡すとき、ECC (エラー修正コード) によりデータの精度が検査されます。このパラメータは、この機能の監視を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
PCI devices	PCI (Peripheral Component Interconnect) は 32 ビットバスで、Pentium III などの新しいプロセッサでは 64 ビットバスに拡張できます。33 MHz または 66 MHz のクロック速度で動作可能です。このパラメータを [Enabled] に設定すると、このバスの動作が監視されます。	Enabled Disabled

RDM の設定

図3-19に、[RDM Configuration] 画面を示します。

```

RDM Configuration
-----
RDM v4.3 BIOS Version.....xxxxxx
Console Redirection.....[Disabled]

Hidden Partition.....[Disabled]

Communication Protocol.....[N, 8, 1]
COM Port Baud Rate.....[57600]
*Detect Tone.....[Enabled]
Remote Console Phone No.....[xxxxxx]
Dial Out Retry Times.....[Infinite]

*Modem Initial Command.....[xxxxxx]

Emergency Management
RDM Work Mode.....[Disabled]
Connect-in Password.....[xxxxxx]
Paging Times.....[4]
Paging No.:
1. ....[xxxxxxxxxxxx]
2. ....[xxxxxxxxxxxx]
```

図3-19 [RDM Configuration] 画面

メモ: パラメータにアスタリスク (*) が付いている場合は、詳細レベルの場合に限りそのパラメータが表示されることを示します。詳細レベルを表示する方法については、32 ページの「セットアップ (Setup) の開始」を参照してください。

表 3-11 では、[RDM Configuration] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表 3-11 [RDM Configuration] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
RDM 4.3 BIOS version	RDM BIOS のバージョン番号を示します。	
Console redirection	このパラメータにより、RDM マネージャステーションへの接続を使用可または使用不可にできます。このパラメータが [Enabled] に設定されている場合に条件が満たされると、RDM 対応サーバは再起動するときに、RDM マネージャステーションを自動的に呼び出します。この呼び出しには、[Remote Console Phone No] パラメータに指定されている電話番号が使用されます。接続が確立すると RDM サーバと RDM マネージャステーションの表示画面は同じになり、RDM マネージャステーションはサーバコンソールと同じ機能を果たすことができます。このパラメータを [Disabled] に設定すると、RDM マネージャステーションは動作しません。	Disabled Enabled
Hidden partition	隠しパーティションにアクセスできるようにするには、このパラメータを [Enabled] に設定します。[Enabled] に設定すると、サーバは隠しパーティションに対して起動します。	Disabled Enabled
Communication protocol	このパラメータは、RDM 接続に使用する COM ポートのパリティ、ストップビットおよびデータ長を指定します。このパラメータは、N (なし)、8、1 のいずれかに固定されており、設定を変更することはできません。	N , 8, または 1
COM port baud rate	このパラメータにより、RDM 接続用の COM ポートの転送速度を設定できます。このパラメータの設定はモデムの仕様によって異なります。設定を変更する前に、ご使用のモデムのユーザガイドを確認してください。	9600 57600
*Detect tone	[Enabled] に設定すると、RDM は、発信音が出ているかチェックしてからダイヤルアウトします。[Disabled] に設定すると、RDM は、発信音をチェックをしないでダイヤルアウトします。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	Enabled Disabled

表 3-11(続き) [RDM Configuration] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Remote console phone no.	このパラメータによって、RDM マネージャステーションの電話番号を設定できます。RDM が起動され、リモートコンソールが使用可能になると、この電話番号を RDM モジュールがダイヤルします。このパラメータを設定するには、パラメータを強調表示させ、リモートコンソールの電話番号を入力します。 リモートコンソールの電話番号が内線の場合は、電話番号の後にコンマ (,) を 6 個入力してから内線番号を入力してください。内線番号を入力するときは、各数字の後にコンマを挿入することをお勧めします。コンマによって遅延が指定されます。 このパラメータを空白にすると、リモートコンソールの呼び出し機能は無視されます。	ユーザ入力
Dial out retry times	RDM サーバにエラーが発生して RDM が起動されたときに RDM サーバが RDM マネージャステーションへの接続を再試行する最大回数を、このパラメータで指定できます。指定された回数まで試行しても接続できない場合、サーバは RDM の処理を行わず、通常モードになります。	2 4 8 Infinite
*Modem initial command	モデムによっては初期化用のコマンドが必要なものもあります。ご使用のシステムで特殊なタイプのモデムがサポートされるようにするためのコマンドを、このパラメータで指定できます。コマンドを指定しない場合、BIOS によってデフォルトの方法でモデムが初期化されます。 メモ: Modem Initial Command Fail エラーメッセージが表示されたときだけ初期化コマンドを指定してください。表示されない場合、このパラメータは空白にしておいてください。 このパラメータは、詳細レベルの場合のみ表示されます。	ユーザ入力
Emergency management		
RDM work mode	システム障害を検出すると、RDM モジュールは以下のモードに従って動作します。 Disabled: 動作しない Waiting: ページング後、RDM ステーションからの呼び出し待ち Reboot: ページング後、再起動 メモ: Waiting を選択する場合、3 文字以上のパスワードを設定する必要があります。	Disabled Waiting Reboot
Connect-in password	不正なアクセスからサーバを保護します。	ユーザ入力
Paging times	サーバの障害やハングアップが起きた場合に RDM モジュールがダイヤルする回数を設定できます。	1、2、4、 または 8
Paging No.	サーバの障害やハングアップが起きた場合に RDM モジュールがダイヤルするページ番号を設定できます。	ユーザ入力

詳細オプション

メモ：システムへの損害を避けるために、知識のある技術者以外は、[Advanced Options] 画面の設定を変更しないでください。

図3-20に、[Advanced Options] のパラメータを示します。

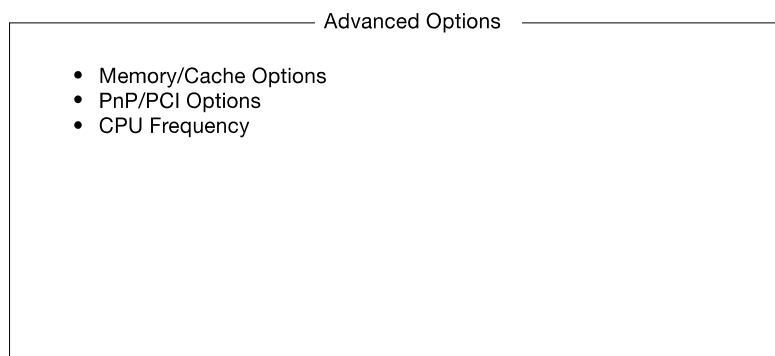


図3-20 [Advanced Options] 画面

メモリ/キャッシュオプション

図3-15に示す [Memory/Cache Options] 画面では、詳細なシステムメモリ機能のコンフィギュレーションを行うことができます。

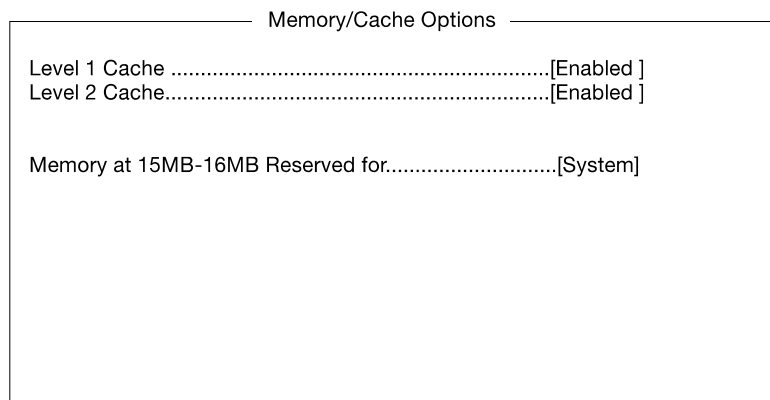


図3-21 [Memory/Cache Options] 画面

表3-12では、[Memory/Cache Options] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-12 [Memory/Cache Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Level 1 cache	1次キャッシュメモリ（CPU内蔵のメモリ）を使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Level 2 cache	CPUモジュールに実装されている2次キャッシュメモリを使用可または使用不可にします。	Enabled Disabled
Memory at 15 MB - 16 MB reserved for	システムと拡張ボード間のメモリアドレスの競合を防ぐために、システムまたは拡張ボードのどちらかだけにこのメモリ領域を割り当ててください。	System Add-on card

PnP/PCIオプション

図3-22に示す [PnP/PCI Options] 画面では、PCIデバイスの設定を行うことができます。

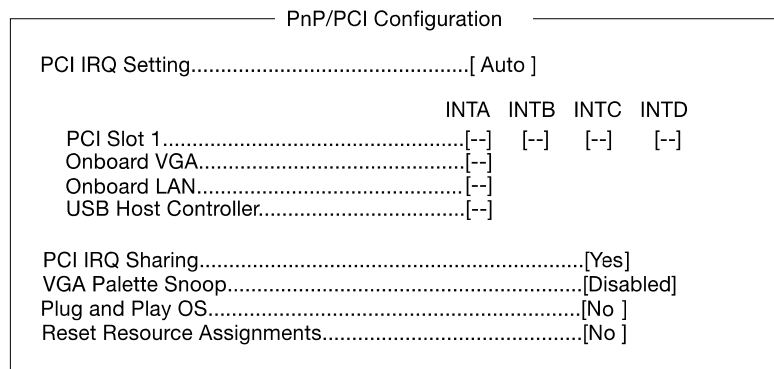


図3-22 [PnP/PCI Options] 画面

表3-13では、[PnP/PCI Options]のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表3-13 [PnP/PCI Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
PCI IRQ Setting	[Auto]を選択すると、システムに取り付けられたプラグアンドプレイ (PnP) デバイスのコンフィギュレーションを BIOS が自動的に行います。自動的にコンフィギュレーションを行わない場合は、[Manual]を選択してください。 メモ:PCIカードに関する技術的な情報についてはマニュアルを参照してください。	Auto Manual
PCI slot 1	PCI IRQ Setting パラメータを [Auto] に設定すると、このパラメータには、PCI デバイスに自動的に割り当てられた割り込み番号が表示されます。PCI IRQ Setting パラメータを [Manual] に設定すると、システムの PCI デバイスに割り当てる割り込み番号をここに指定する必要があります。	ユーザ入力
Onboard VGA	PCI IRQ Setting パラメータを [Manual] に設定すると、オンボード VGA への割り込みを手動で割り当てることができます。PCI IRQ Setting を [Auto] に設定すると、このパラメータは灰色で表示され、ユーザからは設定できません。	ユーザ入力

表 3-13(続き) [PhP/PCI Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Onboard LAN	PCI IRQ Setting パラメータを [Auto] に設定すると、このパラメータには、オンボード LAN に自動的に割り当てられた割り込み番号が表示されます。PCI IRQ Setting パラメータを [Manual] に設定すると、システムのオンボード LAN に割り当てる割り込み番号をここに指定する必要があります。	ユーザ入力
USB host controller	PCI IRQ Setting パラメータを [Manual] に設定すると、USB ホストコントローラへの割り込みを手動で割り当てることができます。PCI IRQ Setting を [Auto] に設定すると、このパラメータは灰色で表示され、ユーザからは設定できません。	ユーザ入力
PCI IRQ sharing	このパラメータを [Yes] に設定すると、2つの異なるデバイスに対して同一の IRQ を割り当てることができます。この機能を使用不可にするには [No] を選択します。 メモ : 残っているデバイス機能に対して割り当てる IRQ がいない場合は、このパラメータを使用可にすることをお勧めします。	Yes No
VGA palette snoop	システムに 2 つ以上の VGA カードを取り付けた場合は、このパラメータにより、パレットスヌープ機能を使用することができます。 VGA パレットスヌープ機能では、コントロールパレットレジスタ (CPR) で、システムに取り付けられている各 VGA カードの VGA RAMDAC (デジタルアナログコンバータ、カラーデータ記憶装置) を管理および更新することができます。スヌーピング処理では、CPR により全 VGA カードへと信号が送られ、それぞれの RAMDAC を更新できるようにします。全 RAMDAC データが更新されるまで、カードへ信号が継続して送られます。これにより、画面上に複数のイメージを表示できます。 メモ :VGA カードの中には、この機能に対して設定が必要なものもあります。このパラメータを設定する前に、VGA カードのマニュアルを確認してください。	Disabled Enabled

表 3-13(続き) [PhP/PCI Options] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Plug and play OS	<p>このパラメータを [Yes] に設定すると、BIOS は SCSI カードなどの PnP 起動デバイスだけを初期化します。[No] に設定すると、BIOS はサウンドカードなどのあらゆる PnP 起動デバイスおよび非起動デバイスを初期化します。</p> <p>メモ:Windows 2000などのプラグアンドプレイ対応のオペレーティングシステムを使用しているときだけ、このパラメータを [Yes] に設定してください。</p>	Yes No
Reset resource assignments	<p>このパラメータを [Yes] に設定すると、PnP 以外のカードや PnP ISA カードを取り付けた場合に IRQ が競合するのを回避できます。これにより、すべてのリソース割り当てがクリアされ、取り付けられているすべての PnP デバイスに対して、次のシステム起動時に、BIOS によりリソースが再度割り当てられます。リソースデータがクリアされると、パラメータが [No] に再設定されます。</p>	No Yes

CPU 周波数

図3-23 に示す [CPU Frequency] 画面は、CPU の速度およびバス周波数を表示します。

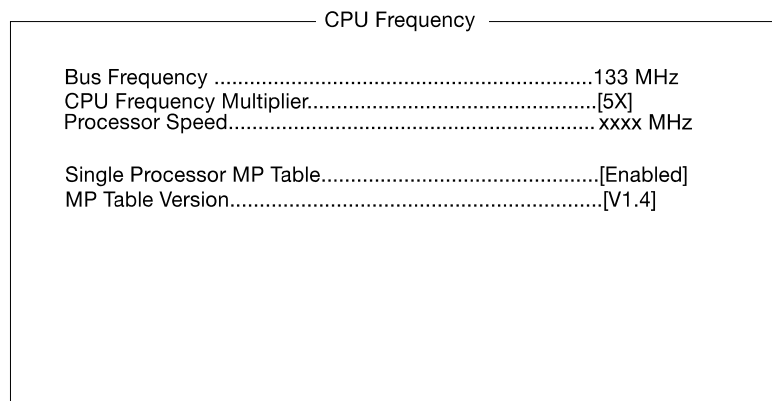


図 3-23 [CPU Frequency] 画面

表3-14 では、[CPU Frequency] のパラメータについて説明します。太字で表示された設定は、デフォルトの推奨されるパラメータ設定です。

表 3-14 [CPU Frequency] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Bus frequency	バス周波数とは、コンピュータの内部コンポーネントと CPU (場合によってはフロントサイドバス (FSD)) の間のデータ転送速度です。クロック速度はメガヘルツ (MHz) で表されます。1MHz = 100 万サイクル / 秒です。高速バスを使用すると、データの転送速度が速くなり、アプリケーションの実行速度が向上します。	任意
CPU frequency multiplier	このパラメータは、ご使用のシステムの CPU コア / バス比率を示します。この比率により、CPU コアのクロック速度はバス速度の倍数として決まります。CPU 周波数乗数は、システム BIOS によって自動的に検出されます。	3X、3.5X、4X、4.5X、5X、5.5X、6X、6.5X、7X、7.5X、8X

表 3-14(続き) [CPU Frequency] 画面のパラメータ

パラメータ	説明	オプション
Processor speed	<p>プロセッサ速度は、バス周波数に CPU 周波数乗数を掛けた値であり、BIOS によって自動的に設定されます。クロック速度が速いほど、CPU は 1 秒あたりにより多くの命令を実行できます。</p> <p>CPU が 2 つ取り付けられているときは、どちらも同じ周波数で実行されます。</p>	
Single processor MP table	<p>このパラメータが [Enabled] に設定されている場合、BIOS は Windows NT 用のマルチプロセッサ (MP) テーブルを作成できません。シングルプロセッサのシステムで Windows NT を起動している場合は、システムパフォーマンスを向上させるためにこのパラメータを [Disabled] にしておいたほうがよいでしょう。デュアルシステム用に別の CPU を取り付けただけの場合は、このパラメータを [Enabled] にし、Windows NT を再インストールしてください。</p> <p>シングルプロセッサのシステムで、Windows NT をインストールする前にこのパラメータが [Enabled] に設定されていた場合は、Windows NT を再インストールすることなくマルチプロセッサシステムにアップグレードすることもできます。</p>	<p>Enabled</p> <p>Disabled</p>
MP table version	MP テーブルのバージョン番号	

デフォルト設定のロード

このオプションを使用して、最適化されたシステムコンフィギュレーション用のデフォルト設定をロードします。デフォルト設定がロードされると、いくつかのパラメータは固定の設定として灰色で表示されます。灰色で表示されたパラメータに対しては、ユーザが設定を行うことはできません。

メインメニューから [Load Default Settings] を選択すると、図 3-24 に示すダイアログボックスが表示されます。

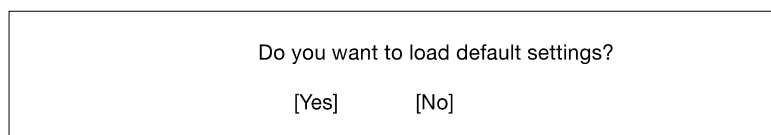


図 3-24 [Load Default Settings] 画面

[Yes] を選択すると、デフォルト設定がロードされます。

[No] を選択すると、メッセージは無視され、BIOS ユーティリティに戻ります。

設定変更の中止

このオプションを使用して、BIOS に対する変更を無視し、元の設定を再ロードします。メインメニューから [Abort Settings Change] を選択すると、図 3-25 に示すダイアログボックスが表示されます。

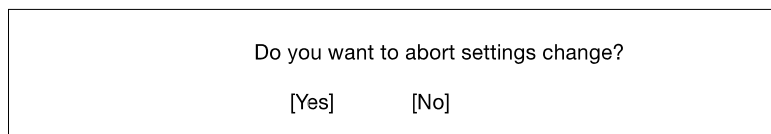


図 3-25 [Abort Settings Change] 画面

[Yes] を選択すると、変更が無視され、元の設定が再ロードされます。再ロードが終了すると、画面にメインメニューが表示されます。

[No] を選択すると、メッセージは無視され、BIOS ユーティリティに戻ります。

セットアップ (Setup) の終了

システムのコンフィギュレーション値を検討してください。すべての設定値が正しいことを確認したら、メモを取ってください。記録した値は大切に保管しておいてください。将来、バッテリーの電源が切れたり、CMOS チップが損傷した場合にセットアップ (Setup) を再実行するときに、記録しておいた値が必要となります。

Esc キーを押すと、セットアップ (Setup) を終了します。図3-26 に示すダイアログボックスが表示されます。

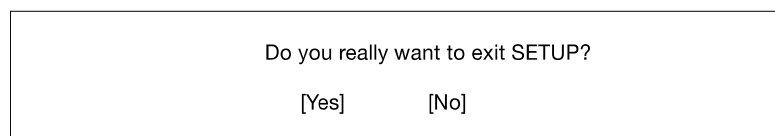


図3-26 [Exit Setup] 画面

矢印キーを押して、[Yes] か [No] かを選択します。**Enter** キーを押します。

セットアップ (Setup) ユーティリティに対して何らかの変更を行った場合は、図3-27 に示すダイアログボックスが表示されます。

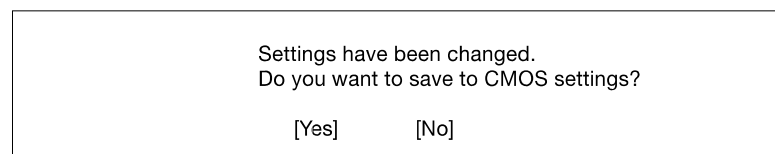


図3-27 [Save Settings] 画面

矢印キーを押して、[Yes] か [No] かを選択します。[Yes] を選択すると、CMOS に変更が保存されます。[No] を選択すると、元のコンフィギュレーション値が保持されます。**Enter** キーを押して終了します。

索引

B

Baseboard Management Controller (BMC) 11
BMC (Baseboard Management Controller) 59

C

CMOS RAM 31

I

ICMB Intelligent Chassis Management Bus を参照して
ください。
IEC32 29
Intelligent Chassis Management Bus (ICMB) 11
Intelligent Platform Management Bus (IPMB) 10
Intelligent Platform Management Interface (IPMI) 10
IPMB Intelligent Platform Management Bus を参照して
ください。
IPMI Intelligent Platform Management Interface を参照
してください。

N

NEMA 5-15R コンセント 4
NEMA 6-15R コンセント 4

P

PDU 4, 29

か

環境仕様 2

き

起動、システム 8
基本 (Basic) セットアップユーティリティレベル 32

こ

互換性 1
コンソールの接続 8
梱包内容 2

し

システムの起動 8
出版物の入手 xiii
詳細 (Advanced) セットアップユーティリティレベル 32

す

スーパバイザパスワード
解除 54
設定または変更 53
チェックを行わない 55

せ

設置に必要な空間 14

セットアップ (Setup)

[Abort Settings Change] メニュー 71

[Advanced Options] メニュー 64

[Advanced Setup Utility] メニュー 33

[Basic Setup Utility] メニュー 33

[Boot Options] メニュー 47

[CPU Frequency] メニュー 69

[Date and Time] メニュー 50

[Disk Drive Control] メニュー 57

[Disk Drives] メニュー 37

[IDE Primary Channel Master] メニュー 38

[IDE Primary Channel Slave] メニュー 41

[IDE Secondary Channel Master] メニュー 41

[IDE Secondary Channel Slave] メニュー 41

[IPMI Configuration] メニュー 59

[Load Default Settings] メニュー 71

[Memory/Cache Options] メニュー 65

[Onboard Peripherals] メニュー 42

[PnP/PCI Options] メニュー 66

[Power Management] メニュー 44

[Product Information] メニュー 36

[RDM Configuration] メニュー 61

[System Information] メニュー 34

[System Security] メニュー 52

終了 72

セットアップユーティリティ (Setup Utility) レベル 32

セットアップ (Setup) の終了 72

セットアップユーティリティ (Setup Utility) レベル 32

そ

測定単位 (ラックマウント型) 15

た

立ち上げの失敗 8

て

電源投入の問題 8

電力消費量 3

電力分配装置 4, 29

は

パスワード

スーパーバイザ 52

ユーザ 56

ふ

物理的仕様 2

プロセッサのシリアル番号 58

ほ

放熱 3

ゆ

ユーザパスワードの設定または変更 56

ら

ラック取り付け

金具 16

ラックマウント型

設置に必要な空間 14

測定単位 15